

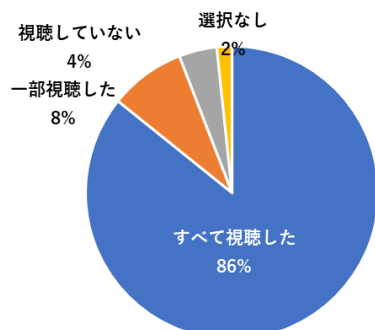
令和4年度 避難生活支援リーダー/サポーター研修
モデル実施・アンケート結果

(1) アンケート結果

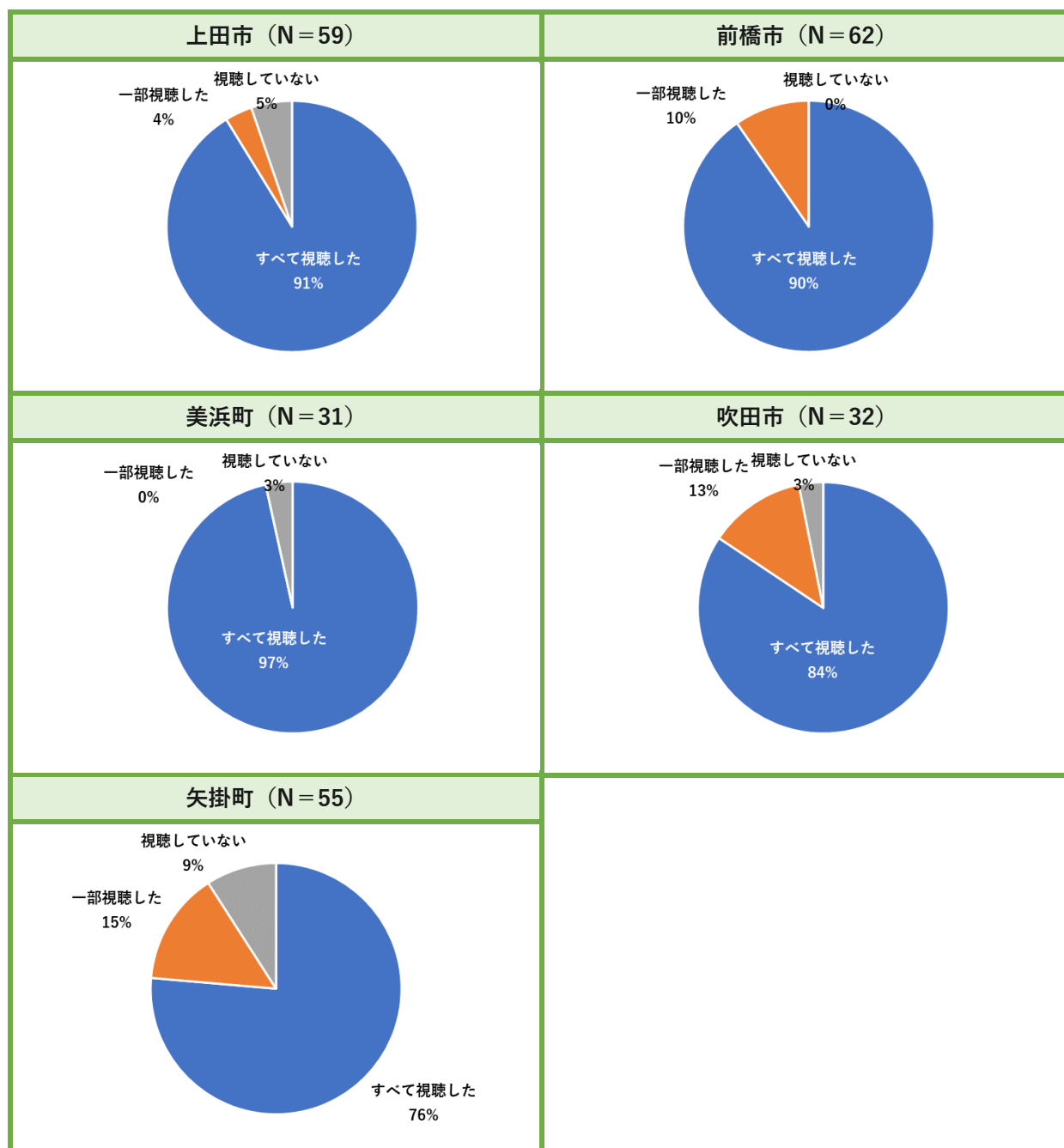
オンデマンド講座

Q1. オンデマンド講座の受講状況、受講方法

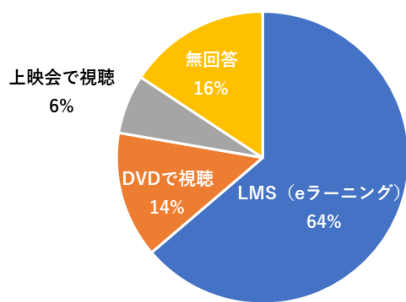
○受講状況（研修1日目までに視聴したか） N=239



94%が
事前に視聴



○受講方法 N = 229

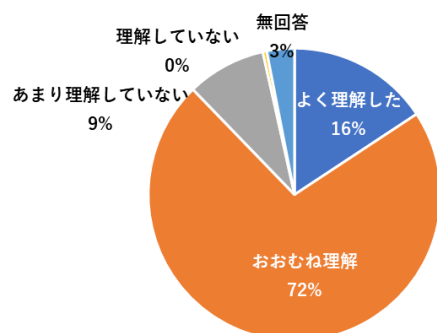


64%が
LMS で視聴

市町村 (N)	上映会で視聴 (%)	DVDで視聴 (%)	無回答 (%)	LMS (eラーニング) (%)
上田市 (N = 56)	25%	9%	18%	48%
前橋市 (N = 62)	0%	10%	16%	74%
美浜町 (N = 30)	3%	17%	20%	60%
吹田市 (N = 31)	0%	6%	13%	81%
矢掛町 (N = 50)	0%	28%	12%	60%

Q2. オンデマンド講座の内容の理解度、情報量／長さ

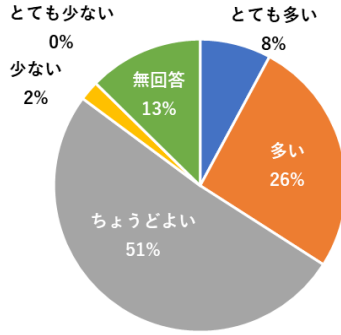
○理解度 N=229



88%が「理解した」と回答

市町村名 (N)	理解度	割合
上田市 (N=56)	理解していない	0%
上田市 (N=56)	あまり理解していない	13%
上田市 (N=56)	無回答	4%
上田市 (N=56)	よく理解した	12%
上田市 (N=56)	おおむね理解	71%
前橋市 (N=62)	理解していない	0%
前橋市 (N=62)	あまり理解していない	14%
前橋市 (N=62)	よく理解した	18%
前橋市 (N=62)	おおむね理解	68%
美浜町 (N=30)	理解していない	0%
美浜町 (N=30)	あまり理解していない	3%
美浜町 (N=30)	無回答	7%
美浜町 (N=30)	よく理解した	23%
美浜町 (N=30)	おおむね理解	67%
吹田市 (N=31)	理解していない	0%
吹田市 (N=31)	あまり理解していない	3%
吹田市 (N=31)	よく理解した	13%
吹田市 (N=31)	おおむね理解	84%
矢掛町 (N=50)	理解していない	2%
矢掛町 (N=50)	あまり理解していない	4%
矢掛町 (N=50)	無回答	6%
矢掛町 (N=50)	よく理解した	14%
矢掛町 (N=50)	おおむね理解	74%

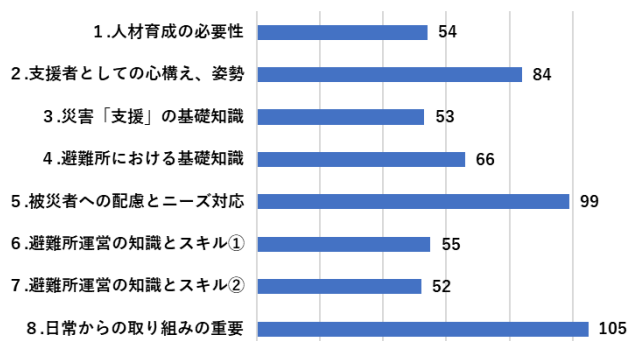
○情報量／長さ N=229



51%が「ちょうどよい」と回答
34%が「多い」と回答

市町村名 (N)	割合														
上田市 (N=56)	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回答</th> <th>割合</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ちょうどよい</td> <td>48%</td> </tr> <tr> <td>多い</td> <td>36%</td> </tr> <tr> <td>無回答</td> <td>7%</td> </tr> <tr> <td>とても多い</td> <td>5%</td> </tr> <tr> <td>少ない</td> <td>4%</td> </tr> <tr> <td>とても少ない</td> <td>0%</td> </tr> </tbody> </table>	回答	割合	ちょうどよい	48%	多い	36%	無回答	7%	とても多い	5%	少ない	4%	とても少ない	0%
回答	割合														
ちょうどよい	48%														
多い	36%														
無回答	7%														
とても多い	5%														
少ない	4%														
とても少ない	0%														
前橋市 (N=62)	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回答</th> <th>割合</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ちょうどよい</td> <td>58%</td> </tr> <tr> <td>多い</td> <td>27%</td> </tr> <tr> <td>無回答</td> <td>8%</td> </tr> <tr> <td>とても多い</td> <td>5%</td> </tr> <tr> <td>少ない</td> <td>2%</td> </tr> <tr> <td>とても少ない</td> <td>0%</td> </tr> </tbody> </table>	回答	割合	ちょうどよい	58%	多い	27%	無回答	8%	とても多い	5%	少ない	2%	とても少ない	0%
回答	割合														
ちょうどよい	58%														
多い	27%														
無回答	8%														
とても多い	5%														
少ない	2%														
とても少ない	0%														
美浜町 (N=30)	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回答</th> <th>割合</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ちょうどよい</td> <td>60%</td> </tr> <tr> <td>多い</td> <td>14%</td> </tr> <tr> <td>無回答</td> <td>23%</td> </tr> <tr> <td>とても多い</td> <td>3%</td> </tr> <tr> <td>少ない</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>とても少ない</td> <td>0%</td> </tr> </tbody> </table>	回答	割合	ちょうどよい	60%	多い	14%	無回答	23%	とても多い	3%	少ない	0%	とても少ない	0%
回答	割合														
ちょうどよい	60%														
多い	14%														
無回答	23%														
とても多い	3%														
少ない	0%														
とても少ない	0%														
吹田市 (N=31)	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回答</th> <th>割合</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ちょうどよい</td> <td>48%</td> </tr> <tr> <td>多い</td> <td>26%</td> </tr> <tr> <td>無回答</td> <td>13%</td> </tr> <tr> <td>とても多い</td> <td>13%</td> </tr> <tr> <td>少ない</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>とても少ない</td> <td>0%</td> </tr> </tbody> </table>	回答	割合	ちょうどよい	48%	多い	26%	無回答	13%	とても多い	13%	少ない	0%	とても少ない	0%
回答	割合														
ちょうどよい	48%														
多い	26%														
無回答	13%														
とても多い	13%														
少ない	0%														
とても少ない	0%														
矢掛町 (N=50)	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回答</th> <th>割合</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ちょうどよい</td> <td>42%</td> </tr> <tr> <td>多い</td> <td>22%</td> </tr> <tr> <td>無回答</td> <td>18%</td> </tr> <tr> <td>とても多い</td> <td>14%</td> </tr> <tr> <td>少ない</td> <td>4%</td> </tr> <tr> <td>とても少ない</td> <td>0%</td> </tr> </tbody> </table>	回答	割合	ちょうどよい	42%	多い	22%	無回答	18%	とても多い	14%	少ない	4%	とても少ない	0%
回答	割合														
ちょうどよい	42%														
多い	22%														
無回答	18%														
とても多い	14%														
少ない	4%														
とても少ない	0%														

Q3. 印象に残ったプログラム ※最大3つまで回答



市町村	1.人材育成の必要性	2.支援者としての心構え、姿勢	3.災害「支援」の基礎知識	4.避難所における基礎知識	5.被災者への配慮とニーズ対応	6.避難所運営の知識とスキル①	7.避難所運営の知識とスキル②	8.日常からの取り組みの重要
上田市 (最大3つ)	14	25	14	19	24	15	13	23
前橋市 (最大3つ)	9	18	16	17	29	18	19	28
美浜町 (最大3つ)	9	8	6	7	14	7	7	12
吹田市 (最大3つ)	10	6	6	8	13	8	5	14
矢掛町 (最大3つ)	12	27	11	15	19	7	8	26

Q4. 印象に残った内容をお聞かせください

上田市

- 自分の民生委員の活動に通ずるものがあり参考になった
- 日頃から取り組まないと、災害時に活動できないと理解できた
- 避難所へ避難して終わりではなく、中長期に避難所で過ごすようになった時の支援が大切なこと、何より避難者ばかりでなくボランティア、スタッフを総合的に見てまとめるリーダーの必要性を感じた
- 様々な世代、立場の人で考える事によって、多角的に避難所運営、支援が行える、当たり前の事だとは思いますが、自分が経験した事の物差しで考えない事がとても大切
- 避難所は、多種多様な方達が集まるのでそれぞれの方のニーズに応じた、対応が必要であることを学び、支援の難しさも感じた
- 避難所の運営体制において一人一人の主体性が大切だという視点、共通理解がはかれると良いなと思った
- 主に時間の経過とともに変化するニーズのくみとり、大切にしたい
- 日常からの取り組みの重要性より倉敷の方々の取り組み(日頃からの)など、つながりの温かさなど伝わり心が"じん"とした
- 行政に任せるのではなく、いろいろな立場の人ができる範囲で支援者となる必要性があることはよく分かったが、具体的にどうするかは情報量が多くこなされていらない
- LSの役割とは何かを理解することが重要。運営にあたる組織のどこに位置づき、どういう情報を集め、組織としての取り組み、対応とに具体化していくとよいか、を学んでみたい
- 毎日の生活の中での危機管理に対する感性を磨いておき、自分を含めた命をどう守るかについて意識して生活していきたい
- まずは、自分自身が健康で地域の方々の関わり方が心に残った
- 個人を大切にすること、相手の気持ちにそっていくことが大事ということ、支えていく側が考えて、協力し合うこと
- 内容の一つひとつがどれも自分にとっては新鮮なものであった
- 地域を得ることの大切さが分かった
- ながびく避難所での生活でいかに清潔な環境を作るかが大切
- 避難してくる方々がそれぞれ異なる困難を抱えていても当事者でないために気がつけなかったことが多くあると改めて感じた。いろいろな視点の意見を今から知っておきたい
- 避難所生活が中長期に渡る場合、暮らしの場として昨日できる環境を整えて支援していかなければならない。共同生活をする中でのストレスなどにも気付いていくことが大切
- 避難所運営に関して必要な知識やスキルは多いので今後の研修を通して深く学びたい
- 日常からの取り組み、特に地域のつながりが大切
- 被災地での状況がいま一つ現実的にイメージできない中、具体的な内容が講義されていたので大変参考になった
- 被災者への配慮等も考えていかななくてはいけない
- 避難所を経験したことがないので基礎的な事が理解できた
- 避難所でのたくさんの課題、問題に対してどのように解決していくのか難しいと感じると共にくり返しの研修練習が必要と感じた

- 避難所での行動、優先することなどが分かったし、どんな人に声掛けをするのか、「鳥の目と虫の目」が印象に残った。虫の目になりがちだと思うので鳥の目を心掛けたいと感じた
- テキストと講師の一環性をもう少し工夫して欲しい
- DVD でどんどん流れてしまうので、少し理解が難しかった
- テキストを見ながら聞いていたが、テキストの情報が多いので、どの辺を説明しているのか、把握するのがやや難しかった

前橋市

- アイスブレイクが重要で被災者から困りごとを聞き出すことが大切であると思った
- 被災者の様々な背景に配慮しなければならないこと。支援者として多様性をもって接することの必要性を改めて理解した
- これまでの災害での課題や対応の事例が参考にできる良い内容であった
- 説明が分かりやすく良かった。eラーニングなので止めたりできて理解しやすかった
- 実際に地震等の災害に倉敷の話が良かった。一人一人に何ができるかを考えて動いている様子が理解できた。今後、自分に何ができるかは不安ではあるが一つでも役に立てるよう学びたい
- 倉敷市社協さんの水害前の地域住民のつながりが命を救った話。水害後の避難所解消前に開催した行事、そのあとも集いの場が増えた事など示唆に富む話であった
- 倉敷市の氾濫時の避難の実体験は印象に残った
- 日常からの取組が避難所で役立ち、地域での交流がとても大切という事が印象に残った
- オンデマンド講座を聞いて避難所運営のスキルをよく理解した
- 災害を知りなぜ支援が必要になるのかを知ることができた
- 知識とスキルが少々難しいと感じたが、今回は初めの一步として勉強したい
- 赤十字の「災害時高齢者生活支援」の内容を学んでいるため、理解しやすかった
- リーダー/サポーターの期待される役割等が一回視聴しただけでは理解できず、何回か繰り返し視聴した。聴く・寄り添うことを日頃から心掛けていかなければならないと感じた
- 避難者が関係者などの共通認識などのコミュニケーションが何度もできたのが印象に残った
- 支援者のメンタルサポート・関係法との支援内容が印象に残った
- 避難所運営にあたって必要な配慮・工夫といった内容が印象に残った
- 被災者の気持ちの配慮がとても考えられた内容であり、多くの人に受講してもらいたい
- 被災者の多様化、実際被災された地域のつながり方
- 支援者のセルフケアが印象的
- 日頃からの繋がりが災害の際に大きな力になることは良く分かった
- 避難所における女性への配慮、要支援者へのアプローチ、受付時のジェンダーへの配慮
- 横文字や難解な言葉が少なく分かりやすかった。事例などの話があると制度や論理がより分かりやすい。今後全国各地でこのような研修を行うのであれば、字幕や手話通話があると受講できる方の幅が広がると思う
- いずれも大切な内容であったが情報量が多く、なかなか理解するに至らなかった
- テキスト内容とほぼ同じであったので、実施状況等の動画を取り入れ分かりやすいストーリー制にした方が良かったのではないか
- 項目としては章立てが良いが、研修テキストと DVD の構成順が違っていた
- 避難所運営は被災された方、それぞれのニーズに合わせた対応の必要性と難しさを感じた
- 前半部分は同じ内容のくりかえしで飽きてしまった

- 被災者の運営の人に指導、課題を指摘するのではなく、被災者や運営の人達をサポートする姿勢が大事。リーダーという名称は不向きではないか
- 災害時の制度の知識について理解が十分できなかった

美浜町

- 様々な制度があり、被災者への周知が難しいと感じた
- 被災者への周知をするにあたりまずは自分自身で支援の全体像を把握し、適切なタイミングで適切な制度を伝えられるように知識を深める必要性を感じた
- 発災前からの顔の見える関係、人との繋がりが大切であること、地域の中で地域の人が核となれることの優位性、大切さ
- 被災者への配慮とニーズ対応について、共感という自分が一番に思う事で大事にしていきたい
- 法律・制度に関する知識がほとんどないことに気付いた
- 自分も被災した状況でどこまで何ができるかを考えさせられた
- 鳥の目と虫の目を合わせ持って被災者と向き合うことが大切であること
- 被災者の多様性を認め、ニーズに合わせた支援が必要であること
- 避難所運営について勉強になった。人への支援の重要性が分かりました
- 被災者の気持ちを考えて、声かけをしなくてはいけない。個室で直接話す。他にもこういう人がいないとか寄り添うことが大切
- 被災者、一人一人→みんな違う事、改めて、確認できたこと
- 普段から地域の輪を大切にしたい
- 多様性への対応。個々の生活ベースをどう掴むか、自立、場所を確保すること
- 量が多く、余り印象に残った項目が少ない。3日間の研修後、再度受講した方が良い
- 他の力を借りる方法が具体的にイメージできなかった

吹田市

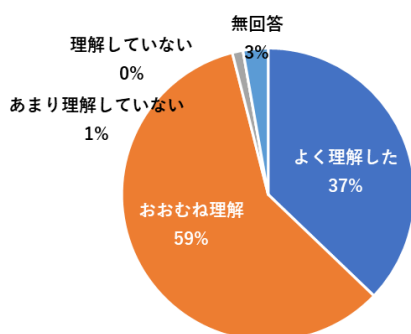
- 配慮という事が自分にできるのか不安
- LS は、共感。上から指導するのではない
- 想像するだけでは分からないことがいっぱいあり、もっと様々な視点から見ないといけないと再認識した
- 公的支援制度など専門的なものまで把握しておかないといけないのかと不安に思った
- 全体的に多岐に渡っているので、組織的に動かないと大変だと思った
- 役割が一部の人に集中しないように全体で分担しないといけない
- 避難所における基本知識については、地区防災会議でも議論している題材なので、特に全体的に印象に残った
- LS は、これから新しく作られていく役割なので、行政担当職員や、LS 同士の連携、情報交換を日常的に行うことの重要性
- 倉敷市の事例紹介
- 全てを見ていないので何とも言えない
- いろいろな知識を得ることができて良かった
- 発災時の作業の多さ。役割分担がどのように行われるのか、不安に思った
- 避難所運営については災害時にテレビ等で観る程度なので参考になった
- 避難所の設置など、玄関ひとつにとっても、細かい配慮が必要であること

矢掛町

- 倉敷市の取り組み、真備の水害
- 真備地区での日ごろからの取り組み
- 真備地区での実践が印象に残った。参考になる点があった
- 真備・西日本豪雨・日常からの地域とのつながりが避難につながった例
- 真備での実際の現場対応は参考になった
- 日常から地域での防災を通じた連携
- 真備町の避難所のスタッフとして市職員である友人が参加していた。話を聞くと「自分でできる事を」と思い、視聴した
- 災害支援の補助金等について、当面の活動資金や日常からの心構え
- 避難所で私たちにできることはあまりないが「基礎知識を知っているだけで行動できる事があるのでは」という事が必要であると理解できた
- 多様な被災者の対処の仕方が実際には体験と感じた
- 具体的な状況が例としてあったので分かりやすかった
- 災害関連死とされる死亡の原因が判らなかった
- オンデマンド講座の一つ一つの時間の長さが適切であり、忙しい中でも視聴することができた。プログラムの中では支援者としての心構えが印象に残った
- 被災者のよりそい情報の共有化、その気持ちになる
- これから細やかに取り組み対応していくことになる。心構えや基礎知識が参考になった
- 多様な被災者への配慮とニーズ対応において被災者の心の変化への気づきの大切さ
- 避難所はただ避難さえできればいい場所ではないということが分かった
- 一番印象に残ったことは避難所内に居る人の能力を発揮して運営に生かすこと
- 多様な方々が避難されてくるが各々のニーズを把握して対応している必要があること
- 被災された方へのニーズを鳥の目のように虫の目のように見る
- 被災された方と支援者をつなぐ
- どのプログラムもよかった。時間の配分も良く分かりやすかった。今後に生かしたいと感じた
- LSとしての立場が理解できた
- 避難者の気持ちと多様性への対応の重要性、共感できるか自信がない
- 内容が多様、大量であり受講者に要求されるのはどこまでなのか。自分に対応できるのか不安になった

Q1. 1 日目の全体の内容の理解度、長さ

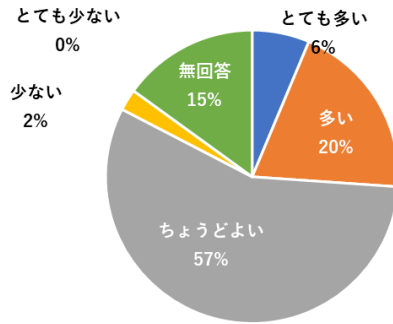
○理解度 N = 253



96%が「理解した」と回答

市町村	理解度
上田市 (N=62)	よく理解した 42%, おおむね理解 56%, 無回答 0%, あまり理解していない 2%, 理解していない 0%
前橋市 (N=71)	よく理解した 34%, おおむね理解 58%, 無回答 7%, あまり理解していない 1%, 理解していない 0%
美浜町 (N=34)	よく理解した 38%, おおむね理解 59%, 無回答 3%, あまり理解していない 0%, 理解していない 0%
吹田市 (N=30)	よく理解した 37%, おおむね理解 63%, 無回答 0%, あまり理解していない 0%, 理解していない 0%
矢掛町 (N=56)	よく理解した 35%, おおむね理解 61%, 無回答 2%, あまり理解していない 2%, 理解していない 0%

○情報量／長さ (N=253)



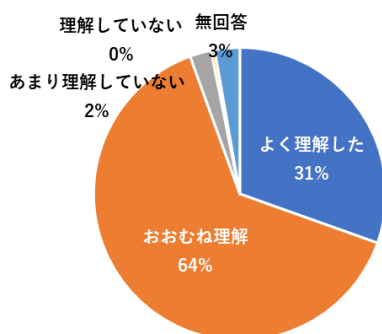
57%が「ちょうどよい」と回答
26%が「多い」と回答

市町村名 (N)	割合														
上田市 (N=62)	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回答</th> <th>割合</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>とても少ない</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>少ない</td> <td>3%</td> </tr> <tr> <td>ちょうどよい</td> <td>41%</td> </tr> <tr> <td>多い</td> <td>32%</td> </tr> <tr> <td>とても多い</td> <td>8%</td> </tr> <tr> <td>無回答</td> <td>16%</td> </tr> </tbody> </table>	回答	割合	とても少ない	0%	少ない	3%	ちょうどよい	41%	多い	32%	とても多い	8%	無回答	16%
回答	割合														
とても少ない	0%														
少ない	3%														
ちょうどよい	41%														
多い	32%														
とても多い	8%														
無回答	16%														
前橋市 (N=71)	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回答</th> <th>割合</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>とても少ない</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>少ない</td> <td>4%</td> </tr> <tr> <td>ちょうどよい</td> <td>59%</td> </tr> <tr> <td>多い</td> <td>14%</td> </tr> <tr> <td>とても多い</td> <td>7%</td> </tr> <tr> <td>無回答</td> <td>16%</td> </tr> </tbody> </table>	回答	割合	とても少ない	0%	少ない	4%	ちょうどよい	59%	多い	14%	とても多い	7%	無回答	16%
回答	割合														
とても少ない	0%														
少ない	4%														
ちょうどよい	59%														
多い	14%														
とても多い	7%														
無回答	16%														
美浜町 (N=34)	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回答</th> <th>割合</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>とても少ない</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>少ない</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>ちょうどよい</td> <td>59%</td> </tr> <tr> <td>多い</td> <td>6%</td> </tr> <tr> <td>とても多い</td> <td>12%</td> </tr> <tr> <td>無回答</td> <td>23%</td> </tr> </tbody> </table>	回答	割合	とても少ない	0%	少ない	0%	ちょうどよい	59%	多い	6%	とても多い	12%	無回答	23%
回答	割合														
とても少ない	0%														
少ない	0%														
ちょうどよい	59%														
多い	6%														
とても多い	12%														
無回答	23%														
吹田市 (N=30)	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回答</th> <th>割合</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>とても少ない</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>少ない</td> <td>3%</td> </tr> <tr> <td>ちょうどよい</td> <td>63%</td> </tr> <tr> <td>多い</td> <td>17%</td> </tr> <tr> <td>とても多い</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>無回答</td> <td>17%</td> </tr> </tbody> </table>	回答	割合	とても少ない	0%	少ない	3%	ちょうどよい	63%	多い	17%	とても多い	0%	無回答	17%
回答	割合														
とても少ない	0%														
少ない	3%														
ちょうどよい	63%														
多い	17%														
とても多い	0%														
無回答	17%														
矢掛町 (N=56)	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回答</th> <th>割合</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>とても少ない</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>少ない</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>ちょうどよい</td> <td>66%</td> </tr> <tr> <td>多い</td> <td>23%</td> </tr> <tr> <td>とても多い</td> <td>4%</td> </tr> <tr> <td>無回答</td> <td>7%</td> </tr> </tbody> </table>	回答	割合	とても少ない	0%	少ない	0%	ちょうどよい	66%	多い	23%	とても多い	4%	無回答	7%
回答	割合														
とても少ない	0%														
少ない	0%														
ちょうどよい	66%														
多い	23%														
とても多い	4%														
無回答	7%														

Q2. プログラム項目それぞれの満足度、印象に残ったこと

基礎講座 1

○理解度 (N=253)



95%が「理解した」と回答

市町村名 (N)	よく理解した (%)	おおむね理解 (%)	あまり理解していない (%)	理解していない (%)	無回答 (%)
上田市 (N=62)	34%	61%	5%	0%	0%
前橋市 (N=71)	28%	66%	2%	0%	4%
美浜町 (N=34)	38%	59%	0%	0%	3%
吹田市 (N=30)	30%	67%	3%	0%	0%
矢掛町 (N=56)	25%	66%	2%	2%	5%

○印象に残ったこと

上田市

- 被災者の状況を把握することが大切だと学びました
- 災害で亡くなる以上に災害関連死の方が多いということが残念だと思った。人間らしい尊厳をもって過ごせるよう研修を受講したい
- 災害関連死の実態
- 研修の重要性
- 避難所運営の質を上げるための課題
- 阪神大震災の映像がとても印象的でした。少し(泣)
- 避難生活について理解できた
- 支援者の必要性が理解できた
- 心構え、重要性を感じた
- 災害関連死の割合が多いこと
- 災害関連死を防ぐためにできる人ができるアプローチをする
- 本講座の主旨が理解できた
- 徐々に災害関連死が増えてきている事
- MCのお二人の女性の進行が素晴らしい
- オンデマンドの資料の焼き直した中身で重複したもので残念
- とても上から目線での話だった

前橋市

- 狙いがはっきりと理解できた
- ビデオの内容と合わせて分かりやすかった
- 1つとして同じ被災地はない、地域の人達と一緒に考えていくというキーワードが印象的
- 中長期の支援経験がなく、ボランティア側ばかりだったので良い学びであった
- それぞれの力が発揮できるようなサポートエンパワメントが大事ということ
- リーダー/サポーターとしての自覚、姿勢について考えさせられた
- 災害関連死を起こさせないために専門家の介入前に地域住民でも防げるという意識
- 災害関連死を起こさせないアプローチの重要性
- 専門的スキルのある方はほとんどの方が知らないと思うので考えてもらいたい
- 地域に根差した活動が発災時にも重要で日頃からの準備の大切さを改めて感じた
- 関わる人を増やしていくことが大切ということ
- 避難所は生活の場であること
- 災害時に避難所運営の課題など理解した
- 説明が分かりやすかった。速さもスピーディー過ぎず落ち着いて聞くことができた。事前にオンデマンドで基礎知識を身につけたうえでの講義だったのでより分かりやすかった
- 避難所生活が長くなると様々な弊害が出てくる、それをいかに日常に近づけていくのか、そして関連死を起こさないようにすること
- 災害関連死の多さ。それを予防していく考え方
- 災害時に、多くの連携が必要であり住民同士の連携も不可欠であり、防災力の向上や避難された方への配慮が行き届くことに繋がる

- 避難所に避難した後に部屋を移動するということがあると心も体も負担がかかるので、あらかじめ部屋の役割を決めておくことはとても大切だと感じた
- テキストで勉強した事をおさらいできて良かった
- 説明だけでなく委員のコメントも参考になった
- 事前の学習もあって良く理解できた
- 取り組んでみて改めて難しさを感じた
- リーダー/サポーターとしての役割は理解したが実際にその場面になった場合は不安である
- 経験がなく現場でできるのだろうか
- 自分にできることはあるのか

美浜町

- サポーターのような存在が徐々に増えていくことで、自助共助の意識の醸成に繋がれば、避難所運営も円滑に進むと感じた。
- 避難所の状況は大きくは変わってない、人がごった返し、床で雑魚寝や車中泊。ただそんな中でも少しずつ経験を積み重ねていっていること
- 避難所のリアルな動画を拝見し、心に残った
- 避難所運営と被災者支援を別々に考えていたが、被災者支援に必要なスキルを持って避難所を運営できる住民を増やすことの必要性を感じた
- 災害関連死は絶対させない!!という強い気持ちが大切だと思った
- 熊本地震が、最近に起きたのに、関連死が非常に多いことに驚いた
- 「災害関連死を起こさないアプローチ」のイメージイラストが良かった
- 協力者をふやすこと。協力者の役割を明確に、問題への対応できる組織づくり、其為の指導者の育成
- 心情や状況が理解できるか心配
- 行政だけに頼りにせず、市民同士で運営サポートできることが必要
- 「リーダー／サポーター」という表現にした理由、幅広い方に参加してもらいたい
- 突然起きる災害で、避難所が開設されても、運営のスキルを持った人材がいないと、関連死を生むことになる。スキルを持った人が多いほどいい、ということが印象に残った
- オンラインと重複することが多かった。
- 美浜町民の人柄、気質をひとまとめにくくすることは難しい。町民として、決めつけてほしくないと感じた。それこそ、町民も多様な人がいるから

吹田市

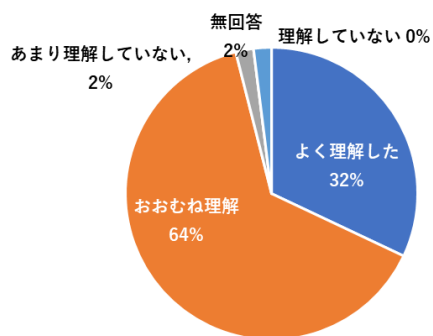
- 避難所が最終どんなように運営されたらいいのか。また、行政だけでは厳しいこと
- この研修を通じてLSが、地域に根差し、新たに養成していくのか。他地域に支援に行けるスキルを身に付けるのか。まあまあ理解しておいてって、レベルなのか、よく分からない。自治会では、なかなか防災意識があるようで、ないので、取り組んでいきたい
- 災害関連死が8割いたことが衝撃的
- オンデマンドで理解している
- 災害関連死を防ぐため、避難生活環境の向上が急務。このことに率先して取り組むことができる人材として避難生活支援リーダー／サポーターの育成が必要

矢掛町

- 災害関連死を防ぐために、避難生活の環境向上が重要であるということ
- 本研修会の目的・目標が明確に示されていた
- 避難生活支援リーダー/サポーターの役割・課題
- 生活環境向上に率先して取り組むことができる人材
- 経験していないことなので、その多様性に驚くばかり
- 避難者の状況はそれぞれ異なること、それを十分理解してサポートが必要
- 事前研修（オンデマンド）で学習していたことと重なる内容が多く理解できた
- 災害関連死をなくすということの必要性を深く考えることができた
- 避難所の運営に関する認識・知識不足
- 災害関連死される方がとても多い。それを0にするために地域住民やボランティアが行政だけに任せることなく工夫しながらい止めるようにしていく
- 一人ではできないこと、自助、共助、公助が大切
- リーダー/サポーターの役割や期待されるものを感じとることができた
- 行政のみではまわらない、住民の参加が必要
- 避難所は短期的なものだという考えではなく、様々な人の生活に視点をおきたいと感じた
- 過去からの勉強しこれからの支援に役立てる話しを聞いた
- 支援する人をふやすことができれば、多くの被災者の方を理解し、配慮することができるという事を知った
- 災害関連死を起こさせないアプローチのための人材育成の大切さ
- 被災者に対して自分がどう向き合っていけばよいのか勉強になった
- 困ったことが言い出しにくい人の声かけが大事であると思う
- 被災者の声をていねいに聞き心情に添い対応
- 3つの大事にしたい姿勢、災害関連死を起こさせないアプローチは納得できた
- 分かったつもりでも実際にできるかでもその時にやらなければならない
- 多様な面からの支援する人の連携の必要性
- 避難生活支援リーダー/サポーターのあり方・重要性が良く分かった
- 自己肯定感のある人がサポート役になるとよいと思った
- 参加した人間はあくまでリーダーの支えとして、被災者へのかかわりについて考えられた
- 一人一人違うので聴いて確認していくこと
- 有識者の方も含め今回の企画が人に寄り添う姿勢を理解するものになっていることにうれしく思った
- アジェンダという言葉は住民からしたら聞き覚えがないと思う。なるべく住民目線の言葉選び、資料にした方がいいのではと思った
- 関連の資料が適確だったが、事前の学習と被っている
- 重要度は分かったが、自分はどこまでやればよいのか

基礎講座 2

○理解度 (N=253)



96%が「理解した」と回答

市町村名 (N)	理解度	割合
上田市 (N=62)	よく理解した	37%
	おおむね理解	60%
	無回答	2%
	あまり理解していない	1%
	理解していない	0%
前橋市 (N=71)	よく理解した	32%
	おおむね理解	62%
	無回答	4%
	あまり理解していない	2%
	理解していない	0%
美浜町 (N=34)	よく理解した	41%
	おおむね理解	56%
	無回答	3%
	あまり理解していない	0%
	理解していない	0%
吹田市 (N=30)	よく理解した	23%
	おおむね理解	77%
	無回答	0%
	あまり理解していない	0%
矢掛町 (N=56)	よく理解した	25%
	おおむね理解	70%
	無回答	0%
	あまり理解していない	5%
	理解していない	0%

○印象に残ったこと

上田市

- グループ討議でいろいろな意見が聞けて勉強になった
- 被災者一人一人はそれぞれ違った人生を背負ってきていること
- 様々な方がいるなかで一人一人に寄り添いながらその方にあった支援ができるよう創造力を研ぎ澄まして行くことの大切さを感じた
- 要配慮者の説明が分かりやすかった
- もう少し具体的ケースがのっていると良い
- 被災者の心情について
- 期待される役割=多様性の尊重する
- 多様性を尊重する
- 災害の分だけ被災がある
- 様々な人がいることをしっかり理解する
- 現状の把握について勉強になった
- 具体的な事例や画面は緊迫感があった
- 避難所での過ごし方は人それぞれで理解することが難しい。人間力を高めたい
- リーダーのイメージが理解できた
- いろいろな避難者がいるので多様性を尊重する。
- 要配慮者の立場例が想像より多かったのであらゆる方の立場に立って寄り添わないといけないことを学べた
- 見、聞、感じた事からより多くの情報を得ること
- それぞれ立場が違うので一人一人の背景に目を向けていかなければならない

前橋市

- 災害時における要配慮者の立場への対応が理解できた。今後の訓練等に生かしたい
- 寄り添うとは難しいものだという事が分かった
- 自分だったら相談ができるだろうかと被災者の気持ちが分かった気がする
- 避難所は元気である場所ではなくてはいけない。考えたこともなかった視点だった
- 一人一人を「個」を大切に对应すること
- ジェンダー配慮が最近になって気を付けなければならない部分
- 避難所は生活再建をする一歩手前の場所なので次に向けての希望が持てるようにする
- 生活再建は長い道のりであることを改めて理解した
- 被災者としての立場を考えた
- 多様性を尊重する事。意外にできていない方が多い
- 地域が違えば1つとも同じ災害はないこと
- 時間が少ない。意見をもっと出し合いたかった。
- 被災者の立場に沿った対応をすること
- 困りごとと避難所はいっぱい。全ての方は別々の困りごと
- 1つとして同じ被災地、地域はないということ
- 感性を大切にするために支援者が健康で集中できる環境が大切と考えた
- 実践者の講義はとても分かりやすかった

- 避難所の実態と問題点
- 東日本大震災の時を思い出した。日ごろから意識した方が良かった
- 多様性一言葉ではいかいしているつもりだが気持ちの部分で差別的なことがないとはいえないのでより理解していきたいと思った
- 被災者は同じ災害にあっても一人ひとり違う。ひとくくりにしないということ
- 「遠慮や気兼ね」での実際に経験された話
- 宿泊施設ではない、場所が避難所となる
- 講師の実災害（熊本地震）での経験談が印象的
- 支援する方々へ声掛けの大切さを感じた
- 個別性を意識して関わる
- 現場の話から臨場感があった
- 極論の例をあげたが現場には他にも問題のある方がいっぱいいるのでしょう
- 被災者毎のサポートには多種多様であり難しい。被災者の情報があれば対応しやすい
- 実際の弦間が想像できた
- 避難所は生活再建までの中継地点、そこで気持ちが折れたり、体を壊したりしないよう運営をサポートする必要がある
- 避難が長期に及ぶことでの課題など気づくことができた
- ひとりひとり心情や立場等異なるということ、こちらの思い込みは良くない
- 実際のでき事をもと説明頂いたことは印象に残った
- 様々な事例を写真や動画を見ながら話して、身近に感じながら講座を受けることができた。可能であれば要配慮者のなかでも障害者は障害種別に対応例、事例を聞いたかった
- 元々宿泊施設ではないところが避難所になるから泊まれるようにするのが大変
- 様々な被災地での体験はやはり印象に残る。逆にそのような体験は広く長く語っていく必要
- ニーズにこたえるための声掛けの仕方、自己紹介からお互いに話をする、どこに注意するか普段の生活と今困っていることはないか？
- 避難所の実情一ヶ月経過しても日常生活のレベルには程遠い
- 遠慮や気兼ねのお話。通常思考ではなくなる災害の怖さ
- 生活再建に向けた課題、配慮が必要な方たちの例等
- 解決すべき課題が沢山あることを思い知らされた
- 皆さんで協力して、課題を解決していければと思った
- 避難所での声のかけ方
- 参加した自分が他の人へ伝えることも必要かと思った
- 避難所に避難する人は一人一人状況も心情も違うのだと改めて気づいた。また、自分の班の人やほかの班の人の意見を聞いて、共感する部分や新たな発見が多くあった
- 被災者理解などの共通点(支援研修の総合化の可能性)
- 同じく良く分かった。要配慮の具体的な話が印象的だった

美浜町

- 被災者の多様性を理解し、きめ細やかな対応が求められていることは理解しているが、行政だけの力で対応することは難しい
- 属性と個別の視点をもつ距離感、まわりを寄せ付けない空気の人にも話しかける勇氣。同じ

ような人だけでなく、多様な視点、見方が入るように、メンバーも多様に

- ジェンダーや、性的マイノリティなど、分かりやすく説明いただきありがとうございます
- 多様性に配慮するとは、一人一人が抱える困難(個人を対象)に向きあう先に、そのグループに対するアプローチにつなげること
- 多様性を重視した避難所運営にかかわりたい。女性の声が届きにくいと思うが
- 声を上げられない避難者の多様さを思い知った。"ジェンダー"の定義を知った
- 多様な被災者に適切な支援をすることが大切ということを学べた
- 専門家による解説が分かりやすかった(ジェンダーについて)
- 時代に対応したサポートの必要性
- ジェンダーのこと多様性を尊重することが心に残った
- いろいろな人がいるので、サポート側もいろいろな人がいた方が良い
- 避難所の状況が28年前も今もあまり変わっていないこと
- 被災者の心の奥まで読みとることの難しさ、遠慮や気兼ねの裏側にあるものなど、とても勉強になった

吹田市

- 被災者やその支援者などを考える時に色んな人の意見を聞かないと、被災者の声を拾い漏れてしまうこと
- 冒頭の『避難所にいきますか』の質問にほとんどの人が自宅を選択されたのには正直驚いた。地域で(自治会)で各戸訪問が重要課題だと、実感した
- 様々な被災者がいて、配慮しながらの言葉かけの難しさを感じた。避難場所の映像は涙した
- 多様性それぞれの立場に配慮することは工夫すれば可能
- 避難所の現実が少し理解できた
- 被災者の心情はあらためて理解した
- 現実を知る方からのお話しは、貴重で参考になる
- 心のケアが大変必要だということを改めて知った
- 被災地での具体的な困難事案が聞くことができた
- 困っている人に対しての声かけの仕方
- 期待される役割として、耐用性を尊重する、被災者一人ひとりの背景に十分に目を向ける

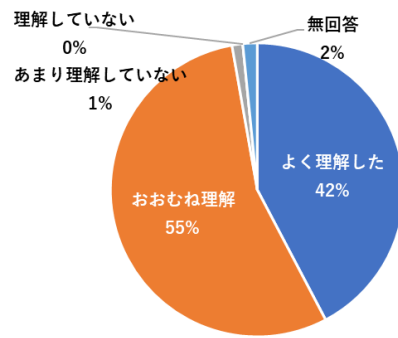
矢掛町

- 過去の動画は人の心を、揺さぶるのに大きな効果があった。今も同じなのでは、と思われてしまうので最近の上手くいっている避難所の様子(パーテーションや声掛け)が分かる動画があるといいなと思った。
- 様々な被災者がいらっしゃってじゅうぶんな配慮が必要だということ
- 具体例が呈示されたが、解決策が不明なままで終了。「答えがない」は答えにならない。経験値に差がある研修参加者のレベル合わせ、ベクトル合わせにはなった
- 災害時における要配慮者の名立場と理解の必要性
- 避難者の気持ち・心情への理解、寄り添うことの大切さ学んだ
- 1995.1.18朝の避難した被災者の状況映像からその大変な状況を想像することができた
- 被災者に対しての対応、心遣いが必要
- 現場での積み重ねの体験でよく理解できた

- 要配慮者のこと、様々な立場の方がいてそれぞれに対応することも難しさを再認識できた
- 高齢者の対応の扱い
- 心情を聞き出すのは自分には難しい
- 観察力・想像力が自分にもっとあってほしい
- 遠慮や気兼ねをする方が多い。おせっかいをやいて声をかける。多様性を尊重する。一人ひとりちがう立場を理解する。社会的立場にも思いをはせながら
- 他人や外国人に平等に対応できるか心配。多様性の知識はあるが実感は少ない。
- 尊重と配慮（トイレ等）障害者にも支援と理解
- 助けてと言えない人たちがいることに気づき「目に見えない変化」豊和感を感じる大切さ、声掛けの温かさの内容にうれしく思った
- 屋外で生活（避難されている）方の写真から様々な問題や課題を引き出したこと
- 避難所の生活環境は周りの「力」をかりる事で変える事ができる。他人の常識を受け入れる気持ちを持つ
- 性別、ジェンダーに対する配慮
- 被災者のこまりごとはそれぞれ数多くあること、個別に対応することの必要性
- 現場の状況において様々な方々がいること、様々な課題があることを再認識できた
- 実例を聞きながら考える事ができて勉強になった
- 被災者の思いは一人一人異なること
- 被災者への配慮の仕方
- 想像すること、イメージをふくらませることで多くの方の不安や悩みを少なくし自尊感情を高めていけることにつながるのだと思った
- 災害関連死を起こさないために、避難者の多様性を考える事
- まずは多様性について知り、理解することが必要だということ。
- いろいろな状況によって対応がことなってくるのが分かった（高齢者、障害者、子供など）
- 避難者の立場になって行動をする。体の具合の確認をする。
- 動画視聴があり理解度が増した。
- 被災者の状況立場は一人一人異なる
- 災害時における配慮者について細かい配慮が必要だと感じた。
- ジェンダーや性的マイノリティという視点が欠けていた
- 想像以上に実態の状況は厳しいとそのことを理解して対応しなければならない。
- 多様性の理解←対応の難しさ、どこまで寄り添えるのか。
- 映像・写真での講義よく理解した
- 期待される役割として多様性を尊重する。
- 多様性の理解が必要でそれぞれへの対応を知らねばならない。
- 多様性を尊重する事の大切さに気付いた
- ①生活環境を変えていく事②多くの人の力をかりて変えていく事が大切であると…！が印象に残っている
- 具体的な実践例を通して被災者への理解が得られるので、自分自身の引き出しを多くすることが大事だと思う
- 避難所のことだけに終始しがちだが、在宅の方にも触れておられていたこと

ワークショップ

○理解度 (N=253)



ほぼ全員が「理解した」と回答

市町村名 (N)	よく理解した (%)	おおむね理解 (%)	あまり理解していない (%)	理解していない (%)	無回答 (%)
上田市 (N=62)	42%	53%	3%	0%	2%
前橋市 (N=71)	41%	55%	0%	0%	4%
美浜町 (N=34)	56%	44%	0%	0%	0%
吹田市 (N=30)	33%	67%	0%	0%	0%
矢掛町 (N=56)	41%	57%	2%	0%	0%

○印象に残ったこと

上田市

- 同じく班の方と同じ課題に向けて考えを出し合うことができ親しみを感じた。いろいろな意見や考えを知ることができて自分の心まで広がった
- いろいろな班の考えが聞けて参考になった
- 声なき声を聞くことが大切
- グループワークでいろいろの意見が聞けて楽しくできた
- 知らない人達との話し合い、いろいろな角度から意見が出てとても勉強になった
- コミュニケーションの大切さ、身を持って学んだ
- チームで詳細で話し合えたこと
- 自分が思うことよりも他の人達もいろいろ考えているのだなと感じ勉強になった
- グループで意見を出すと、いろいろな視点があり、学びがたくさんあった
- GWでは皆さんの意見が聞けて良かった
- 皆さんと意見を出し合えたことが良かった
- 考えれば考えるほどわからなくなっていく
- 個別のニーズにあわせた工夫が大事
- いろいろな方々の考えを聞いたことが良かった。
- それぞれのグループの方々の視点の違いを感じた。見方は様々でおもしろい
- 声の掛け方、情報の蓄え方、互いの情報交換
- 共同作業で知らない事がたくさんあった
- 事象への多様なとらえ方があり、話をつなげていくことの大切さを感じた
- 避難所での困りごとに対応する策を考えつつ、避難所を出た後のことも意識する必要があるのだなと学んだ
- 参加された皆様が真剣に考えられたご意見を伺ってありがたかった
- 色んな意見を聞く事ができて、年齢も様々、住んでる所もまちまち、勉強になる事がたくさんあり、とても良かった
- 意見が良く出て満足。経験者の人もいて参考になった
- 被災者も支援リーダーも1人1人考え方も対応も違うことを理解できた
- 様々な立場の方がグループをつくり意見を出し合えて大変充実した時間だった
- グループワークがよかった
- どうしても自分の専門分野の方が気になり、視野が狭くなるころいろいろな人の意見で視野が広がった
- 大勢の人がいると気付きも多くなる
- 避難された方のできることを探すといった発想に至らなかったなので、他の班の発表も大変参考になった
- 多視点(多くの人の目)から、いろいろな発想、発見ができる事を認識した
- ちょっとした言葉から気づくことができた
- 避難者の手助けが必要かどうかの状況をはあくする重要性
- グループで話し合い自分では考えなかった事も知ることができ良かった

前橋市

- 自分が同じ立場の場合、同じ対応になるのかと思い今後の対応する参考になった
- いろいろの意見がある、これをいかに集約するか難しい
- 体に不安のある方の心情が知ることができ良い経験になった。少しでも避難している人に寄り添えられたらと思った
- 所属がいろいろだと視点が広がって自分ではわからなかったことに気づけて良かった。その中でまとめていくことの大切さにも気づく事ができた
- 親身になって声を掛けることが大切。事務的では相手も受け入れてくれない
- 相手の気持ちをくむための言葉がけ言葉選び方が大切。言葉の奥にあるものに気づくこと
- 年齢や普段の地域活動の立場が違う方の話がきけてグループワークが有意義に行えた
- 皆さんが自分の事として対応を考えていたところが良いと思った
- ただ支援するというだけでなく、その人がどうしたいのか、その人が元々持っている力を引き出せる支援が大切だという事。自分でできることは自分で行ってもらう
- 相手方の気持ちに合わせる同じ目線
- 被災者の立場を理解するために話しやすい環境を作り支援必要な事を見つけることが大切
- 地域の人が「素人性の発揮」としてどこまで本人によりそえるかが大切
- グループワークで意見交換でき、意見も集約できた
- 各班とも1つずつ程度違った視点があり、多くの意見を寄せる大切さを感じた
- いろいろな意見がきけて気づく事が多かった。自分の固定観念では解決できないことがある
- 各グループの発表で様々な気づきがあった
- どこにつなげればよいのか、などの知識を有している必要があると思った。自分で解決できないことは分かる人へつなぐことの大切さ
- 人の気持ちを理解することは難しいが声かけがとても必要だと思った
- 意見を伝え合うことは避難所でも大切なこと。自分のことで精いっぱいになっている中で「自己主張」ではない意見の伝えあい、寄り添うことが大切であること
- 様々な職種の方々と意見交換をすることができ、とても参考になった。行政の立場として吸収したい
- 心の中まで入っていくのでうまく聞き出すためにはやさしく接触していくのがいいのかな
- 現場での大変さが大きすぎる。スタッフのまとまりが大事と分かる
- どのグループからもたくさんの意見発表があり参考になった。先生がその都度補足コメントを入れてくれて分かりやすかった
- 避難者の立場に立って寄り添うことが大事だと思った
- 初めて会った人たちとグループで課題に向けていろいろ前向きに話し合うことができた、避難所もコミュニケーションがとても重要
- 自分たちで考え、その上でほかの方の意見を聞いたことで違う視点での発見ができた
- 大枠の中での話し合いなので、課題の範囲やまとめ方がなかなか把握できず難しかった。結果的にはいろいろな視点で考え、発表したものを聞くことができたので参考になった。ワークでも人の話を聞く難しさ話をする難しさも知ることができ勉強になった
- ケースワークで話し合いができたこと。実際の被災地、避難所生活を支援していくイメージを持ちながら研修ができた

- 手厚い支援と限られたリソースでの支援のバランスをどう取っていくか、難しいと感じた
- 住民同士と寄り添い支援が平時からつくれたら良いかなと感じた
- 「ありがとうと感謝しすぎることが後々ストレスになる」という視点が自分にはなかったの
で知見を広げることが必要だと感じた
- 何気ない会話で相手の心を開くことができるということが印象に残った
- 自分が役割をやるという意識でなく、その中の1人であるくらいの意識で携わる気持ちが大事
- リーダー/サポーターというような肩書きのある人間がいるとその人にどうしても頼ってしま
う部分があるように感じた。一人一役というように、避難所にいる全員に役割があると平等
に仕事を回すことができるのではないか
- その場の声かけ、寄り添うことの形の多様性が大事だと思った
- ワークのメンバーの専門性と非専門性が程よく混ざりあったのが良かった(どっちかだめだ
と厳しい)グループ内共有が手数に比べて忙しかった
- 受講生皆さんが良く理解できていたのか。私は70%位の理解度である
- 被災者をAとBで選んで話し合うのをもう少し、妊婦さんや外国人を選択枠に入れて様々な
意見を聞きたかった。AとBが似ているので同じような意見しか出なかった
- 自己紹介で話すことが多いので時間が足りない。講義に対する質疑が欲しい
- サインペンがもっとあるとよかった。ポストイットの形がいくつか別の形があるとよかった

美浜町

- いろいろな人の話、考え方を聞き、新しく学ぶことが多かった
- 活発に意見交換ができ、たのしかった
- 被災者のニーズを聞くにあたり「大丈夫ですか？」と聞くと大丈夫ですという答えが返って
くるので、細かく質問していくことが重要だ、と言った声があり、なるほどと感じた
- にこやかに楽しく学べました。いろいろな人が入ることの大切さ、視点がたくさんあることの
意味、オープンクエスチョンとクローズクエスチョン、拒否の反応だけでなく、内面を理解
しようという気持ち、人の相性、タイミング、声のかけ方、いろいろ変えて、最終は本人の尊
厳、自己肯定、エンパワーメントを高めていくこと
- 受講者たちは地元の地域の方が中心だったのか、積極的に話し合いができた
- 本人が言いにくいこと。本人さえも気づいていないことに気づける力と考える力が大切
- 皆さんの意見(話し合う事)で一步踏みこんだ意見交換出し方ができた
- 1人1人の考え方の違いが考える方向や、大きさに広がっていく事が楽しさと、勉強になっ
た
- グループで多くの「気づき」があったのでとても楽しくできた
- 自分では思いつかないアイデアが出て、気づきがたくさんあった
- グループの皆さんが話しやすい雰囲気を作って下さったことに感謝
- 被災者の置かれている状況や心情を把握するために、声かけをして一步踏み込むことが大切
だと思った。グループで話し合うことで、自分では気づけなかった考えを知ることができて
とてもよかった
- 演習テーマについて、フェーズの違い毎に考えるグループがあり、参考になった
- 共感について考えさせられた

- いろんな考えを聞いて、とてもおもしろかった。仕事や活動していることがちがうと、視点もちがってくるのが分かった
- 人によって感じ方が違うこと、考え方が違うこと、それに不正解はない
- 人の気持ちを理解する事の困難さと、重要性を気づいた
- 被災者の気持ちを察する事の難しさ
- 他の人の意見を取り入れ、アウトプットするのは有意義だった。
- 自分にない視点に気付かされた。でもそれでいいんだ、みんなで補合える運営ができればと。
- 老人(寿命)のレベルへの対応
- 現実を知らないというギャップ、そのジレンマ！

吹田市

- 災害地でも楽しく過ごすことが大切
- 皆で考えいろいろな意見が出て参考になった
- 世代や年齢、背景の違いがある地域の方と共有できたことは良かった
- それぞれのグループでハッとするような意見がいっぱい出ていて、ワーキングの大切さを学べた
- いわゆる要配慮者の立場になって、声かけするのが、難しい
- 参加者の様々な意見が勉強になりました。同じチームの方たちの一体感が生まれた。災害が起きた時もこのように動ければと思う
- 個人ではなく協働するすばらしさ
- 何を考えないといけないかが少し見えた
- いろいろの方と話し合いをおこないいろいろな意見を知ることができた
- 各グループでの発表については考えさせられる事が多かった
- グループワークでは活発な意見交換ができて良かったと思う
- 奥深い。1人では気づかない、知らないことが、グループ・全体でいろいろなことを学んだが現実、どれだけできるか、自分が参加できるか？の不安も増えた
- 気持ちの安らぎは無いも当然だと思うが、そこからもっと避難者の身によりそうことが知らされた
- 様々な立場、地域の方の意見を聞くことができて有意義だった
- いろいろな意見を出しあうことが必要の人の話をきくことが重要
- 何が悲痛者の困り事かを考えること／医療的なことはプロに聞く
- 高齢者の身近な問題として「トイレ問題」があり、その問題の背景に目を向けることの大切さを学んだ
- 各々の感じ方や気付きを聞いたことが最も良いことだと思う
- 解決方法の実際を聞かせてほしい。どのような専門家、団体が援助にきてくれるのか

矢掛町

- 参加地区がバラバラに組まれていて、避難所での連携という点でよかった。地域ごとの課題を理解している、同地区の人たちが集まるとより具体的に自分事として話せたのではないかと
- 防災士など様々な立場の方々の意見や考えを聞くことができた
- 参加者がお互いを知り、避難所生活の気付きを知る機会になったと思う。PFA の LOOK、LISTEN、LINK に沿っており理解しやすい

- 声かけの難しさを考えさせられた。チームとして”つなぐ”ことの大切さを感じた
- 今日のグループメンバーと協力して運営できたより良い運営ができるのではと本当に思った
- 細やかな気配り、想像をされているグループあり、考えさせられた
- グループ内での取り上げ話し合いながら自分の気づかないことを確認することができた
- いざ長期に渡っての避難所運営の困難さと現実にはできるのか不安
- 他人によりそうことの重要性和困ってるアピールができない人の気持ちを聞き出すこと
- 全般的には変化に気づく事、寄り添い取り組み相談が対応である
- 参加者が気持ちの寄り添うことへの理解具合に驚いた
- 一つの事例からも様々な問題点が把握できる事、事例発表から他の人（グループ）の多様な意見視点を学ぶことができた
- 被災者の気持ちになって考える事、気づく事が多くあった
- 被災者の心情や状況の理解はオンデマンドでも視聴したが実際の講義で様々な人の意見を聞くことができ参考になった
- 表面の言葉の奥に気づく事が重要
- 話し合いの中で、災害弱者をつくらない、相手の気持ちに寄り添うことを感じた
- 気づかなかったことも、仲間が複数いれば気づく事ができる。仲間が大切だと感じた
- 想像力に欠けていたと反省しています。もっと現場の状況を想像して対策を考えたい
- どちらの内容も実際にあったことだという重さ、グループで意見を出し合うことで考えが深まっていたように思う
- それぞれ班の様々な考え方を聞くことができ、自分の引き出しが増えた
- 被災者の心のケアについていろいろな意見が聞けて良かった
- 自分たちの班で出なかった気づきを他の班から聞くことができた。避難所の運営には正解がないと言われていたが最適解を求めて深く考える必要があると感じた
- 見落とししていた点が多くあったことが理解できた
- コミュニケーションの重要性、まずは近親者、地区の心の任せられる人との関わりであろう
- 演習の発表を聞くと、いろいろな考えがありすごいと思った。もっとこの時間がゆっくりできるとよかった
- ワークショップの時間をふやすことで自分の理解が深まる
- グループ発表が多い。グループ内での話し合いの時間をもう少しとって欲しい。話し合いの終了時刻を画面に提示してほしい
- チーム内で話し合うことが楽しかった。時間が足りない

Q3. その他気になったことなど

上田市

- 何もわからず参加したのであと2日勉強したい
- 避難所に入るときの聞き取りの大切さ、その後のノウハウが決まったものが必要だと感じた。
- もしかしたら今日の研修で一緒に受講した仲間の皆さんと避難所で活動していくことの道筋が見えると嬉しい
- グループワークは、良かった。
- 各班の発表とてもすばらしい
- 課題等整理しておきたい
- ここにきている方たちで避難所がまわせたなら心強い
- たくさんの意見から、多方面からの見方があるなあと、感心した
- グループの人数も良かった
- 質問のできる時間をとっていただけると良かった。
- 民生員さんや地域の方々といろいろなお話をおき期してとても良い話が聞けた
- 模造紙にまとめるのが楽しかった
- とても楽しく学べた。想像力を働かせて、寄り添う力を磨いていきたい
- 思ったより勉強(体験発表聞いて→講師の方)できて本当に良かった
- 被災者の人となりを理解し活動したい内容が盛りだくさんでいろいろな立場の人の意見がきけて良かった
- 参加者皆さんやる気マンマンで頼もしい!気持ち良い!
- 自治会長から必ず受けろと言われて、正直「面倒くさいな」と言いつつ出席したが、受けてみて、そんな甘い気持ちで副自治会長になっている自分がはずかしかった
- 自分が避難したとき、どう動いたら良いのか具体的に考えてみたい
- 時間正確に進行してほしい
- 事例が古い
- 人数が多い事もあり"非常口(非常時)"の説明は必要

前橋市

- 実際にボランティア活動をされている方のいるグループだったので良いお話も聞けて良かった
- 「傾聴」を大切にしていこうと思う
- 今回の研修が地元に戻っていかせるか心配だ
- 被災者の立場になると心が難しいと思った。復習になった
- 性的マイノリティ、ジェンダーの違いかわらないので対応も分からない
- 今日の参加者は別として、県民の防災への意識が低いと思う
- 時間予定通りに進行していただけてありがたかった。2日目3日目のプログラム内容をもう少し教えてほしい
- 換気が必要だと思うのですが会場がとても寒かった
- グループの周りに役員関係の人がまるで監視するように配置されていた。もう少し全体的にリラックスできるようにしてほしい。

- 課題に対し、多くの人の意見がきけてためになった
- 地元や地域が主となって動いていくためにとても大切な研修だと思った
- 相手を思い相手の思いを引き出すことの大切さを感じた
- 避難所を運営するリーダー・サポーターの重要性。その方々が平常時から顔の見える関係作りが大切
- 受講生が前向きに取り組めるよう配慮しながらのファシリテートは素晴らし
- 模造紙、付箋の使い方、書き方は話し合いに入る前に説明した方がいい
- 毛布を腰に巻いていた女性があり、会場が少し寒かったと思った
- 実際に大規模な災害が発生したら我々は具体的にどのようなことをどのような流れですればいいのか知りたい
- 長中期の避難の訓練は初めてで良かった
- 適切な支援は一般的論化するのではなく、個々の事例の積み上げの中からチョイスする必要があると思った
- ワークシートや付箋紙に書く際のサインペンは一回り細い方が良い気がする
- DWAT という立場、避難所サポーターという立場、専門職チームの立場、支援のバリエーションが増えると思うので、色んな立場の人の発表が聞けると有意義と思った
- 周囲をオブザーバーさんが取り囲む形式、緊張感もあり、気にもなり、善し悪しだと感じた
- グループの構成メンバーが多様であり専門的な知識、避難所での経験談を聞くことができ良かった。時間に限りがあるので、仕方ないが、皆さんの活動をもっと聞きたかった。次回以降が、楽しみでもある
- 本研修が、どのレベルの人を養成しようとしているのかが気になった。避難所の運営や各避難者が抱える課題解決を担う上級レベルか、避難者のよき隣人、知人の立場で、その人に寄り添い、課題に気づき発見し、専門職等につなぐレベルか。オンデマンド動画を含め、要配慮者像等難しい要素もあり、負担に感じる人もいるかもしれない

美浜町

- 他のグループの発表もとても参考になり、人それぞれ、グループにより多様な考え方があり、参考になった
- 被災者への声かけについて、避難の支援として、長期間関わることになると思った際には、更なる心づかいが必要だと感じた
- 行政職員を対象に受講させたい内容と思った。行政職員にこそ必要
- グループになった方とは初めて話し合うことになったが、避難生活支援について前向きに一步踏みこめ合えて貴重な機会となった
- 避難所運営はチームで。若い人ともうまくチームワークがとれる空気を身につけたい
- 避難所に準備されている物品一覧表が有った方が良いのでは
- 地域の違いやグループでの考え方のちがいが良いと思う
- 事前資料の内容の重さにびっくりしていましたが、今日は楽しく学べた
- 話し合いなど時間で区切られた活動のときに、タイマーがあると目安になってよかった
- 役に立つ行動ができるか心配
- 被災者に問いかけて、でてきた要望にどう対応するのか、対応しきれぬのか、今後の研修に期待したい

- マスクのせいなのか、ハッキリ聞き取れない部分があった。
- 講義をオンライン、対面では演習をしたい

吹田市

- 参加している人に若者が多数、何か安心感があった
- 6名のグループが、それぞれ年齢や性別も違う中で、様々な意見を出し合えた事で一体化を感じた。辛嶋講師の進行が素晴らしく気持ち良く受講できた
- モデル事業ということなので、吹田市の特性を前提として内容が盛り込まれていたらなお、よかった。吹田市は集合住宅の比率が高く、そうした地域の特性をモデル事業の内容に盛り込んでいただきたかった。街の特性上、また水害リスクが高いことも含めて、在宅避難者が多いことが予想される。その点などを含めた講義を含めて欲しかった
- 今回このような研修を初めて知った。研修後のアフターフォローや、新たな人材育成を、定期的継続的に行っていただきたい
- 辛嶋さんの声が爽やかで聞き取りやすく元気づけられた。研修内容も工夫されていると思う
- すばらしい方々と環境(部屋も)だった。いろいろな視点のお話も心に響いた

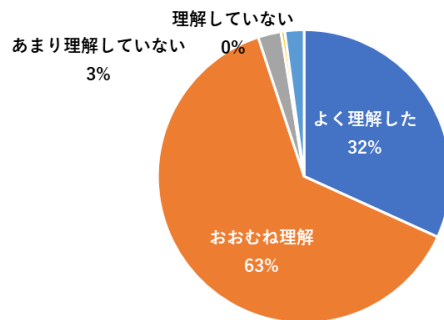
矢掛町

- 少しスクリーンは見にくかったが、資料があつてよかった。最初ということでののか前半に挨拶に挨拶が続いたのが少し間延びした印象を持った
- 多様な主体がいるということをより理解するために子育て世代や障害者、ケアマネ、中高生、外国人の参加ができるような仕組みができあがるといいなと感じた
- 長時間だったが、適度な休憩をはさんで集中して参加することができた。避難生活支援においては、日常生活においても大切な思いやりや気配りにプラスして、心の柔軟さや広い視野を持つことが必要だと感じた
- 後ろでずっと私語をしているスタッフがいらした。
- 災害関連死についておおむね理解した
- 実際の所その場面に遭遇した時自分は行動できるのかが正直分からない
- 若い人や女性の参加が少ないことが残念
- とても有意義な時間だった。時間も半日というのが適切だった。たくさんの方たちの考えや思いを聞いたのは貴重な機会だった
- 避難者支援にかかわったことがまったくなくあまり理解できなかった。基礎的なお話をもっとしていただきたい
- 2週間、3週間後の避難生活のイメージをもう少し説明があつたら想像がさらにふくらむ。常に最悪を想定して考えていきたい
- もっともっと被災者一人ひとりのことを思い、想像力を働かせ、自尊心を大切にしていこうにする
- 集まると同じ意志を持って必要性を感じるが、地方でその熱量をキープできるか心配
- いつ感染、いつ体調不良かも安全衛生が大切であること
- 人とのつながり、日頃からコミュニケーション作りを大切にすることが必要であると感じた
- 避難所の役は男女でやる必要があるが、今回の出席者は男が多い。女性も増やす必要がある
- グループ外にいた方にもグループに入ってもらえたかった。町外の方とお話しできたのがよかった

- 地域に持ち帰りできる事から始めようと思った
- 災害関連死への理解があまり進んでいない。これへの人の意識を高める必要性
- 自己に気づき過去の自分を変えようとする努力、能力は重要課題であろう
- 私には無理かも。自信が少しなくなった
- 演習が大切である、時間の配分をよろしく
- ワークショップの時間や具体的な実施例の時間を増やしてほしい

Q1. 2日目の全体の内容の理解度、長さ

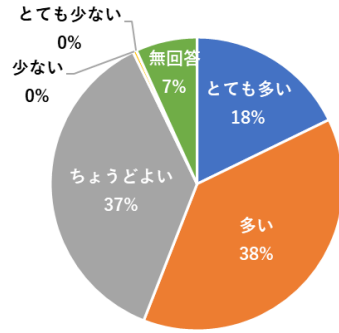
○理解度 (N=236)



95%が「理解した」と回答

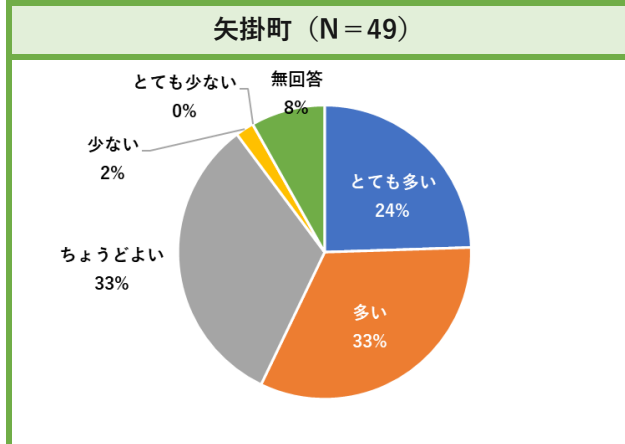
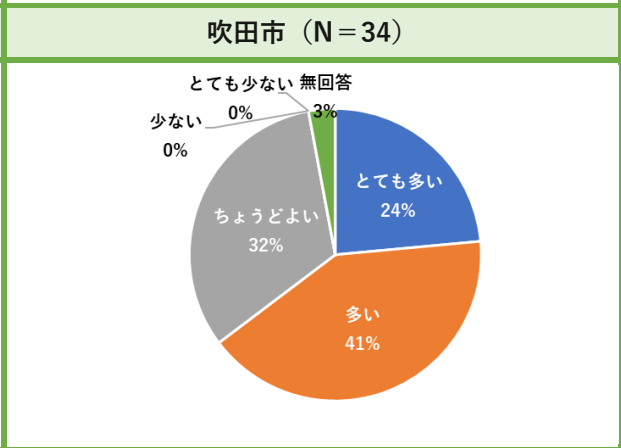
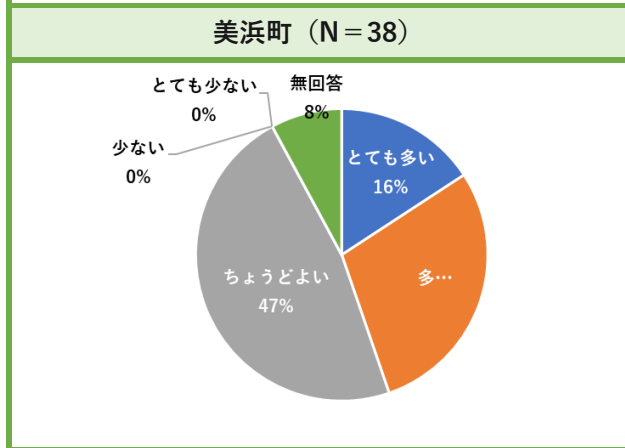
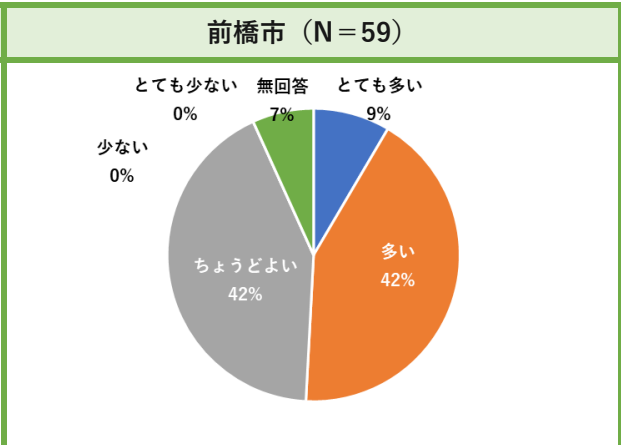
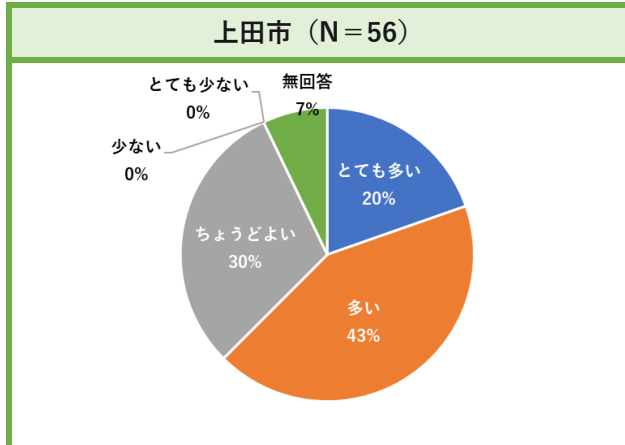
市町村	理解度										
上田市 (N=56)	<table border="1"> <thead> <tr> <th>理解度</th> <th>割合</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>よく理解した</td> <td>21%</td> </tr> <tr> <td>おおむね理解</td> <td>72%</td> </tr> <tr> <td>あまり理解していない</td> <td>5%</td> </tr> <tr> <td>理解していない</td> <td>0%</td> </tr> </tbody> </table>	理解度	割合	よく理解した	21%	おおむね理解	72%	あまり理解していない	5%	理解していない	0%
理解度	割合										
よく理解した	21%										
おおむね理解	72%										
あまり理解していない	5%										
理解していない	0%										
前橋市 (N=59)	<table border="1"> <thead> <tr> <th>理解度</th> <th>割合</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>よく理解した</td> <td>36%</td> </tr> <tr> <td>おおむね理解</td> <td>59%</td> </tr> <tr> <td>あまり理解していない</td> <td>2%</td> </tr> <tr> <td>理解していない</td> <td>0%</td> </tr> </tbody> </table>	理解度	割合	よく理解した	36%	おおむね理解	59%	あまり理解していない	2%	理解していない	0%
理解度	割合										
よく理解した	36%										
おおむね理解	59%										
あまり理解していない	2%										
理解していない	0%										
美浜町 (N=38)	<table border="1"> <thead> <tr> <th>理解度</th> <th>割合</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>よく理解した</td> <td>53%</td> </tr> <tr> <td>おおむね理解</td> <td>39%</td> </tr> <tr> <td>あまり理解していない</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>理解していない</td> <td>3%</td> </tr> </tbody> </table>	理解度	割合	よく理解した	53%	おおむね理解	39%	あまり理解していない	0%	理解していない	3%
理解度	割合										
よく理解した	53%										
おおむね理解	39%										
あまり理解していない	0%										
理解していない	3%										
吹田市 (N=34)	<table border="1"> <thead> <tr> <th>理解度</th> <th>割合</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>よく理解した</td> <td>29%</td> </tr> <tr> <td>おおむね理解</td> <td>71%</td> </tr> <tr> <td>あまり理解していない</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>理解していない</td> <td>0%</td> </tr> </tbody> </table>	理解度	割合	よく理解した	29%	おおむね理解	71%	あまり理解していない	0%	理解していない	0%
理解度	割合										
よく理解した	29%										
おおむね理解	71%										
あまり理解していない	0%										
理解していない	0%										
矢掛町 (N=49)	<table border="1"> <thead> <tr> <th>理解度</th> <th>割合</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>よく理解した</td> <td>25%</td> </tr> <tr> <td>おおむね理解</td> <td>71%</td> </tr> <tr> <td>あまり理解していない</td> <td>4%</td> </tr> <tr> <td>理解していない</td> <td>0%</td> </tr> </tbody> </table>	理解度	割合	よく理解した	25%	おおむね理解	71%	あまり理解していない	4%	理解していない	0%
理解度	割合										
よく理解した	25%										
おおむね理解	71%										
あまり理解していない	4%										
理解していない	0%										

○情報量／長さ (N=236)



56%が「多い」と回答

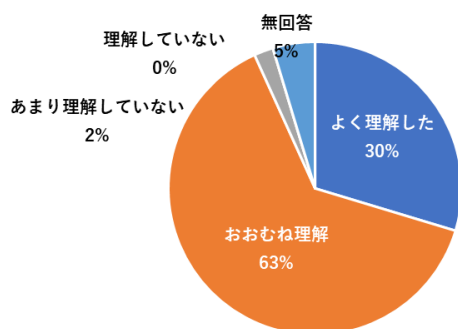
市町村	調査人数 (N)
上田市	56
前橋市	59
美浜町	38
吹田市	34
矢掛町	49



Q2. プログラム項目それぞれの満足度、印象に残ったこと

基礎講座

○理解度 (N=236)



93%が
「理解した」と
回答

市町村名 (N)	よく理解した (%)	おおむね理解 (%)	無回答 (%)	あまり理解していない (%)	理解していない (%)
上田市 (N=56)	21%	71%	4%	4%	0%
前橋市 (N=59)	32%	63%	3%	2%	0%
美浜町 (N=38)	53%	39%	5%	3%	0%
吹田市 (N=34)	23%	65%	12%	0%	0%
矢掛町 (N=49)	22%	74%	2%	2%	0%

○印象に残ったこと

上田市

- 体験した事が無いのであまりピンとこなかった
- 避難所運営の主な担い手は、被災者自身、より1回目より実感した
- 一時的であれ生活の場であること。"地域"であるとの認識を運営者も避難者ももっておく
- 当り前の事が避難時では難しい。日常の心構えも大切
- 担い手のそれぞれの役割を再確認できた
- 避難所生活が1ヶ月以上と長くなる場合もあり、その時の生活の質、心の動きの変化に気づくことができた
- 避難所設営の共通事項について解説が良かった
- 情報量が多すぎてどの位の情報が脳に残っているか不安
- 意見交換が盛んな避難所だったが、ニーズを対策本部に上げてなくて2ヶ月もかかった事例、これを改善しなければならない。関わるすべての人が連携しないとたたりたない
- 様々な状況の方が集まる避難所においていろいろな配慮した運営方法を考慮すること
- 避難所はこんなところ。たいへんな環境だな
- 避難所運営のルールづくりについて課題が多いと感じた
- 避難所の機能と全体像を知ったこと
- ルール作り、情報交換などすることが、大切だと学んだ
- 機能的な避難所をしっかりと分析して今後活かしていきたい
- それぞれのブースで気を付ける事、災害直後と中間期での対応の違い、時間の流れて援助の方法など
- 避難所は、避難してきた方だけでなく生活者としての視点と地域の支援拠点としての役割があることをいつも心にとめておかなければいけないと理解できた
- 避難所の全体像が見えたように感じた。避難所では、課題や困り事をそこに集まったボランティアやスタッフと共に考え解決できるようサポートしていかれるようになっていきたいと思う
- ただ頭で理解していても、じっさい動いてみて、まったく、勉強不足を感じた
- 避難所の生活を家の中の生活ととらえること。情報格差があること。つながりの中で支援すること
- 多種多様な人が、一度に避難しているので、気づく力が大切だと思った
- 避難所業務といっても本当にいろいろあり、いろいろな人が利用するのであらゆる事に気を配らないといけないということを実感した
- 写真多用、LIVE が分かりやすい
- 新しい事も、経験者から聞けた事が良かった。机上より実施した事が大切
- スライド、説明、子供に分かりやすく聞きやすかった。
- 説明が分かりやすく、全体像がイメージできた。担い手の、自治体取組やボランティアが中心と思っていたが、4つの担い手の連携が重要なことが分かった
- 避難所から次の生活の場に移った後も支援を継続していく必要がある

前橋市

- テキストを復習できて分かりやすかったが、演習で自分の気づきに問題があり反省した
- 演習に入る前の準備として良かった。テキストの復習にもなったと思う

- 避難所はいろいろな立場の人がいるので多くへの配慮が必要。支援者だけでなく利用者も一緒に考えて運営することは大切
- 大規模災害では半年以上避難生活が続くこともある。時間の経過で心と体は変わっていく。その時々に合わせて支援をする
- 運営のポイントが分かりやすく写真もあって分かりやすかった
- 改善ポイントは見過ごそうと思えば見過ごせる。なるべく様々な場所や人に目をやり小さい事でも気づけると良い
- わかっているつもりだったが、今回のように図・絵などで解説があると分かりやすい
- 写真などが多くありとても分かりやすかった
- 写真等で実際のイメージをつかめた
- 実際の現場の写真で課題が確認できた
- 各スペースに写真もあり分かりやすかった。専門職の方だけでなく避難者している方も参加して運絵をしていくことが大事でやり方もいろいろあることを知った
- ポイントなど分かりやすくしてくれたので理解した
- 避難所運営のポイントで、課題解決のための実行力や一人ひとりに合わせた情報提供のあり方
- 「積極的に今から避難所運営をできる人を増やしていく」この言葉は今回の研修に重なった
- 避難所の開設時はルール等決まらず難しいものがある
- 実際には災害内容、時期、避難者数で状況が変わることの大変さを実感した
- いざ自分の身に起きた時どのように行動できるか心配
- 基本的な機能ポイント等は理解した。避難所での映像等があればよかった
- 避難所の役割（それぞれのスペース）などについて注意点や必要なことなどが分かった
- 避難所には多種多様な人がいてそれぞれに気づき配慮が大切
- 長中期の避難生活は避難所が生活の場となること
- 避難所にはいろいろな人がいることを忘れてはいけない
- 避難に無知であったことを理解できた
- 避難所は生活の場であり、避難所から仕事に行ったり共有スペースがあったりと講座を受ける前では気づかなかった事も理解できた
- 避難所運営で配慮することも多いのでどうすればうまく運営ができるのか課題を認識できた
- 避難所は健全な心を取り戻す場であり、後の復興への活力や生活再建へのステップになる
- 避難が長期化した場合は、避難所は生活の場になるので、生活環境として整える必要がある
- 要所要所の理解を必要とすることは解ったつもりだが横のつながりの点が解りづらい
- 避難所として理想的と思われる例や、あまり望ましくない例なども提示されると、より理解が深まるように感じた

美浜町

- 避難所でよく見ると、様々ことが起こっている、それに気が付く人がたくさんいた方がいい
- 避難生活から日常生活への視点切り替え、気づきが多い人がたくさんいる所は改善が早い個別の事情にどこまで配慮するか
- 各スペースで必要な物、環境が分かった。

- 施設の物を動かす時とかは、施設管理者に聞くリーダーサポートはそこに住んでる人に意見をきいてささえていく
- ポスターを見て、こまかい見つけたところを話し合うというのが、避難所の状況を考えるきっかけになってよかった
- 「避難所運営・サポートを行う」基本的な立場でありながら運営にとっては大切なことだと思う。サポートする人がいなければ避難所は続かない
- 避難所の型について、理解し、問題点のある所を見つける、力を身に付ける。「避難者と共に居る」という考え方
- 避難者をとりのこさないためには、気配り等の声かけ、気付き、日常生活の知恵等が必要
- 「避難所運営のメインは人。まずは人を見よう」という言葉が印象に残った
- 避難所の各場面についての基本知識が理解できた
- 避難所の実際の写真を見せて頂き、現実の印象を持つことができた
- 避難所の実際運営についてイメージする体験が持ててよかった
- まず被災者の気持ちを考えて、行動することが大切
- 避難所運営の主な担い手。人と人のつながりは必要であり重要な役割であること

吹田市

- 写真などがあり分かりやすかった
- 一時避難場所から生活の場へ変化していくと言う事を災害時のニュースでは見ていたが、我が事と思うと避難所での生活は想像できなかつた。また、その生活を支援していくということは、いろいろな立場や生活を送って来た人々をまとめていく作業もまだ想像できていない
- 生活環境の整備の物理的な環境整備だけでもこんなに有るのかと、大変さを改めて考えさせられた
- 避難所の生活環境の向上は被災者の自尊心を守り、生活不活発病の予防やコミュニケーションの活性化につながる
- 吹田市の避難所運営マニュアル作成指針と少し違うので迷いがあるが考え方は同じと思い理解することにした
- 避難者自身がスタッフとなって運営していくのは理解できるが、実際自分がその場になったら、はたして行動できるか不安を感じる
- 生活環境の整備の物理的な環境整備だけでもこれだけあるのかと、大変さを改めて感じた
- 避難所運営の役割、一日の流れが理解することができ、被災者とコミュニケーションを図り、自身の意欲を活かし、共に課題を解決して行くことが大事であることを認識した
- 項目ごとに、自分の目で手足をつかって、理解していた
- 避難所運営の役割、一日の流れが理解することができ被災者とコミュニケーションを関り、自身の意欲を活かし、共に課題を解決して行くことが大事であることを認識した
- 避難所の運営について、実際の困りごとや解決方法などもっと聞きたかった
- 災害も多岐に渡っているのと、避難者の性格心情もいろいろあり今は全体を把握するのに精一杯。これからは個々の災害及び設備等を把握して、スキルを高めたい

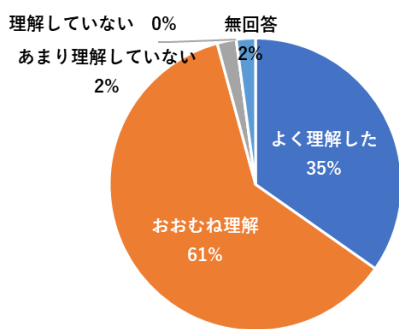
矢掛町

- 実際にはもっと複雑であるが、意見を出し合ってより良い生活を目指していく必要と感じた
- 中長期の避難所運営をするには、とくに想像力を働かせることが大切だと感じた

- 説明が詳しく、ワークショップに入りやすかった
- 生活環境の整備の各項目で、実際の事例の写真をたくさん紹介されていて、報道以外ではなかなか目にする機会が無いので現場の大変さが印象に残った
- 避難所の機能の一つとして、地域の支援拠点としての役割がコロナ禍の今、特に求められると感じるので、実際の避難所運営の際に細やかな対応ができると良いと感じた
- LSとしての押しつけではなく、被災者中心の支援を行うことを何度か呼びかけていたこと
- 映像として視覚的に入ってきたので理解しやすかった
- 気づきと課題解決力、災害の予想がつかない時代なので、大切だと思った
- 実際の体験や事例を提示していただいた説明はとても勉強になる
- 実際にはこんな状況だという内容が知れることがありがたい
- 中長期の視点で考える必要があることは、前回の講義で聞いていたが、今日改めて感じた
- 避難所は、生活の場であり、それぞれの暮らしがあるので、個々に合わせた対応をすることで、他の人にとってもよい効果が生まれると思う。個々が、様々な課題をもっているのです、それに少しでも寄りそえるようにしたいと感じた
- 自分たちが、担い手であると思える用に、皆の力をもらえば良い
- よく、それぞれの立場(自治体、被災者、ボランティア、施設管理者)で主体の押し付け合いが起きるが、役割どころを互いに理解し、みんな主体とすることが大切だと感じた
- 中長期の避難生活では、暮らしの場になるよう機能を整えて、被災者の自尊心を守り、生活の質をあげていく
- 実際の避難所でのいろいろな問題や課題を聞けることができ良かった
- 避難所運営の流れは、話を聞き頭の中では理解できた。(実際の立場ではどうかと不安もある)
- 避難所の運営がある中で、様々な生活リズムをもつ被災者と、向き合う事の難しさを感じた
- 被災者、自治体、ボランティアそれぞれが相談しあえる関係が重要であると実感した
- 時間の経過により、運営の仕方は変わってくることをあらためて理解した
- 中長期の避難所に必要な要素について被災者によりそい被災者の心を守り、意欲を呼び起こすことにつなげることは大変だと感じた
- 避難所の機能として、避難所の尊厳を守る事は大事だと感じた
- 傾ける耳と真摯に受け止め、一緒に考える姿勢を大切にすることこの研修のコンセプト良い
- 基礎講座としての情報量、内容はまずまずと思った

ワークショップ

○理解度 (N=236)



96%が「理解した」と回答

市町村名 (N)	よく理解した (%)	おおむね理解 (%)	あまり理解していない (%)	理解していない (%)	無回答 (%)
上田市 (N=56)	30%	66%	4%	0%	0%
前橋市 (N=59)	41%	52%	2%	0%	5%
美浜町 (N=38)	47%	50%	3%	0%	0%
吹田市 (N=34)	35%	62%	0%	0%	3%
矢掛町 (N=49)	22%	74%	2%	0%	2%

○印象に残ったこと

上田市

- いろんな立場の方のいろんなアイデア、考えが必要、答えはないと感じた
- 現実に見て、これがいつこの地区の現実となるのか分からないことを感じ、しっかりと考えていかなければならない
- 各設定に演習効果を高める工夫があり、具体的に考えることができた
- 行動、現場の様子、変化、直す、考えを分かった
- 受付の重要性。洗濯(干し)の重要性=盲点だった
- 日常から感心を持って見ている事が大切(人ごとではなく自分の事として考える)
- グループワークにより、細かなことまで気づくことができた
- 避難所で生活の状態がおおよそ理解できた。その中で、過ごしやすくしていくのはどうしたら良いのかが、考えていくことだと思う
- 「担当確認」で実際に作業した事がとても良かった
- 受け付けの本来の役割、家に帰っていろいろ考える
- より多くの視点で、現場を見て、対応していく姿勢が大切
- 場面設定を実際にしていただいたことは、身体的に実践的に考えることができた
- 演習の場なのに、初めてのことで(見て)ドキドキしてしまった
- 実場は、さぞ大変なことだろう、いろいろな人がいるだろうと感じた
- 避難所を実際に体験できて、被災者目線に立って行動する事の大切さを学んだ
- 各所を3分以内で見極めて問題点や課題、課題解決のための見直しまでたどり着くのは厳しい
- かなり細かい所が気づかなかった所をグループのメンバーに気づかされた
- 違う視点から気がつくことの違いや、連携が必要な事など
- 避難所を実際に見て困り事に気付けるか心配だったが、実際に自分が避難者だったらどうだろうという視点で見ることができ、考えることができた
- 解決に向けてみんな考えていくことの大切さも実感できた
- 避難所を体験した事がないので、一部ですが実際の様子を見れたのは良かった
- GWで他の参加者との意見交換で自身が気づかない事も勉強になった
- 自分では気にならなかった事がみなさんと話をして気づき、知識となった事がとても良かった
- 避難所の開設には、かなり労働力がかかる
- 被災者の人が避難した場所で、快適にすごせるよう努力したい
- 会場を準備すること大変でした。こうした研修を受けたい
- 具体的な場から感じて学び合えた。いつ役に立つか分からないが、そうしたことに対して、身構えるまず一歩になった
- 実際の現場状況での体験で、多くの方の意見も頂き、居心地のよい会場運営に努めたい
- グループで細い点を指摘し合い、改善できたことは素晴らしい
- 実際に、避難所の様子を見せてもらうことで、問題点改善点に気づくことができた。限られた物資の中で、少しでもよい環境をつくるのは大変
- 何が必要なのか何が不要なのかを気づくことができた
- 演習は現場の状態が分かり非常に良かった
- 幅広く考えることが出てくることを各チームの発表で分かった。演習では、ロールの場面では手も足も出なかった

- 実際被災していないので、想像力を働かせて演習するのが難しかった
- 様々な立場の方が避難生活の支援に関心を持っていることが分かった
- 自身が知らないことはそういった方々から聞けば良いと感じ、心強く思った
- 体育館とは違った場所でしたが、良く設定できた
- 演習は、問題点が理解できて、皆と協力して解決を考えていけるのはすごい
- 他の方と話すことで気づけたこともあり、実際の運営の際もこのように活発に話し合えれば改善することも多くあるのだろうと思う
- 一つの場所だけでも考えること、配慮すべきことがたくさんあった
- 避難所全体を考えるととても労力があるのだろうに、混乱する状況の中で限られた人手、物資で対応していかなければいけないことの困難さがより実感できた
- 1人1人の考えが、大切にされ、気持ちの良い後味のよい研修だった
- 頭で考えていても、現場について対応しろと言ってもなかなか意見や具体策が出てこない。グループで意見交換することで、自分の意見がまとまり、新しい発見ができとてもよかった
- 支援をすることは幅広い人・経験が必要
- 中長期的な避難生活となった場合、避難所が生活の場となるため、衣食住、全てにおいて環境を整えなくてはならない。その中で忘れられやすいが、洗濯、物干しスペースであること、一人で洗濯できない人にはボランティアもあること

前橋市

- 基礎講義で学んだ事を活かしながら、大いに学びある演習になった
- 受講生の方々が知恵を出し合って取り組まれ勉強になるアイデアをたくさん見させていただきました。所属米に視点が異なる意見も参考になった
- パーフェクトの正解はない。もし自分だったらそう考えるかをチームで情報共有してよりよい生活環境を整えていくこと
- 今まで見えていなかったことが実演することで見えてきた。避難者の状態を読み取ることと同じ目線で話して問題を理解することが大切と分かった
- 避難所の課題を見つけ出し工夫するのが防災に意欲的な人たちばかりなので工夫が少ないものでもいろいろ考えられていてとても勉強になった
- 自分には思いつかないような発想やアイデアが出るのもグループで話し合えた結果と思う
- 実際の現場を作った講義であったため理解度が上がった
- 細かな点を聞かせてもらい知らない世界を知ったと思う
- 普段ならよく考えれば思いつくことでも避難所となると抜けてしまうことがあった。グループで協力できたことはとても励みとなった
- 非常口の位置等周りの状況を冷静に見れるようにしたい
- 机上訓練とはちがい、実際にものを使ったりあるもので工夫したりする体験は貴重だった。ちがう意見をまとめたり、尊重したり、チームで動くことの大切さも学んだ
- 一人の考えではなく、多人数で出すことでいろいろな意見が聞けて良かった
- 座学で学んだ事を頭で理解していたが、演習で上手く活かせなかった。また自分とは違った視点で見られている方もいていい経験になった
- 日本語が分からない方、要配慮者への配慮が必要であったこと。ダンボールが様々な所で活用できるので備蓄に必要と感じた

- それぞれのコースの対応は参考になり意見を出すことが大事であった。いろいろな視点で見ることが重要なのかと感じた
- 多くの視点・意見・アイデアが環境に与えること。避難者の目線に合わせるはずが忘れがちになると実感した
- イメージ（予想など）意見など話し合っただけよかった
- 基本線は「人」が行うことであって「人」を育ててゆくことが大切と思った
- 実際の経験がないのでこのような体験型は参考になった
- 生活動線、スペースの取り方で快適性や利便性が格段に変わることが分かった
- 設定が狭い場所ながら細かく作れていて、演出も入りリアルな実習ができよく理解できた
- 実際に改善活動を行ってみて考えるだけと行動してみるのとは違うなど感じた。避難所においては視覚での情報が大切なのだと思った
- 動線を意識した配置で的確に情報を入手する工夫。管理するシステムづくりによって避難生活中の負担を軽くできる
- 同じ場所を見てもそれぞれ見る視点が違うので他の人の意見等を聞くことができて良かった
- 細かいところまでの目配りが必要・大切、衛生面特に注意
- 各グループ皆さんが問題点の洗い出しをして素晴らしいまとめ方だった
- 実際の避難所を体験でき勉強になった
- 各グループがきめ細やかなアイデア、工夫をされていて驚いた。講師の方避難者役の方からの話もとても参考になった
- 各班の発表を聞いていて最初の見学で自分は気づけなかったことについて改善を行ったグループも多くもっと注意して見ないといけないと反省した
- 避難の設備一見問題なさそうでも不十分な部分がたくさんあることを実感した
- 様々な立場の参加者がいて多方面から意見の交換ができ、グループ演習ができた。改めて人の意見・知識の重要性を感じ、それをまとめ、カタチにする難しさも感じた
- 避難所の状況について、今までよりも具体的にイメージすることができた
- 生活環境の整備は、避難所の動線や物資状況、避難者の様子など、様々な視点で考えていかなければならないことを改めて実感した
- 少ない予備物資をとりに行く際に、自分が担当した場所だけでしか考えず物資を集めたため、他の場所で使ったほうが有用であったことを発表見ながら感じた
- 全ての場所において、ルールを決めたり動線を確保したり様々な工夫が必要だということ
- 参加者の方々がどうやったら快適に、分かりやすくレイアウト変更をされていたので、実践で役に立つ演習だったと思った
- 固定観念を持たずに考えて行動する事の大切さを、演習を通じて知らされた
- 各チームに発表しサポーターが説明した後できれば質問コーナーがあると良かった
- 時間的にグループの発表がもう少し長めが良かったか
- 内容が多くすべて理解実行することに不安である

美浜町

- 色々な人が知恵を出し合い、それぞれの問題を解決していく過程を経験でき勉強になった
- 気になることが多すぎ、情報を整理するのが追いつかない。実際の被災した時にはこのことが同時多発的に起こると予想される。それに対応するには何度も何度も訓練を繰り返した方

が、対応力は養われていくと思う

- 目に見えているもの・状況だけでなく、本当の要望はどこにあるのかを観ること、聴くこと
- あるものでどう工夫するか いろいろな人の知恵と力を借りること
- 状況変化していくなかで、常によりよくなることをめざして話し合い、同意を得て、やってみる 実際に動いてみるのが大切
- 各グループの発表を聞いていろいろな考え方や改善ポイントが聞けて参考になった
- 実際に避難所運営の演習ができていろいろな気づきがあった。それを地域の方々にやっていただけのようにもっていくのが課題
- 自分では気がつかないことを学んだ
- 大勢の意見はなによりもこえになると思った
- 自分たちのやった「物資提供」について、他のメンバーの考え、気づきに、びっくり
- 解決に向けてはいろいろな考えがある。話し合う事が大事
- 参加した人の声が出しやすい雰囲気は避難所がよくなるなあと考えさせられた
- 避難所生活は、長期に渡れば、状況が悪くなる。生活不活病になる人も。避難生活がより過ごしやすいように、皆さんで知恵を出し合い、改善していくこと、行動に移すことを実感した
- 参加者の方が、被災者その方の立場や背景に想いをめぐらせて、環境づくりを考えていらっしやるのが、本当にすばらしい
- 実際に動いて何が必要か、配慮が必要かを学ぶことができた
- グループの方と一緒に課題を見つけ、解決策を話し合い、それを実行するという活動ができて楽しかった。一人では考えられないような考えを他の人から吸収できて視野が広がった
- 実際の避難所の場面がイメージできた。物の配置だけでなく、そこに避難者の方がどのようにいらっしやるのか、分かった
- 限られた中で考えるのは難しかった。協力するといろいろな知恵、工夫があっっておもしろい
- 地域・経験がなくても皆さんと話すことで、知恵を出せることが体験できた
- それぞれブースの被災者役の迫真の演技にショックを受け同調して落ちこむ場面があったが、グループの方との話し合いの中で方向性が見えたので助かった
- 避難スペースにそれぞれ役の方がいらっしやっただけでよりリアルに学ぶことができた
- 被災者に寄り添う気持ちをみなさんが持ってみえたこと
- 一人一人意見や考えをもった上で話し合うことで話し合いが活発になり、演習に生きた
- 健常者だけの避難者だけでは無いので1人1人がこまらないように心掛けしたい
- 「受付」の仕事は、そのコミュニティや地域のこともよく分かる顔の人がやるといいな、と思う。やってくる人などからの窓口対応はあたりがきつい、きびしい感じがする
- いろいろな課題や環境整備を考える上でとても参考になり、刺激を受けた
- 避難所のあり方について、少しのアイデアで変化していくことが分かり、一人でも多くの人が意見など声をあげることが大切だと思った
- 受付は最も重要な場所であり、人の心に触れ安心感を与えられる場所であるべきと考える
- 改善に使える物資でどの様に使って欲しかった等の意見もあるとよかった

吹田市

- 必要な物品が少なくて工夫が必要だった
- チームごとにとりくんで、とても楽しかった

- 避難所ごとに考えないといけないルールはあるという事
- 避難所のイメージはできたが、発災直後から生活の場にしていく作業は難しいだろうと感じた研修に集まった人たちは災害への認識や被災者を支援するという思いが高くあるので意見はまとまりやすいが、普通に生活している人が、集まった時にどんな意見が出てくるのかは、避難所運営するときに不安になる
- グループのメンバーを初め、参加者の方々の知恵に感心させられるばかり。みんなで知恵を出し合うことの素晴らしさを感じた
- いろいろな方の知恵や知識を結集すると、不可能が可能になることもある
- 実際の要支援者の対応するのは難しいと思った。自治体との連携も大切だとも思う。事前に自治会を通じて把握しておくと言うが、自治会自体ない地域や、連合から脱退している自治会、自治会に加入していない住民など多数存在する。吹田市はその辺どのくらい認識しているのか不安である
- 避難所運営の基本とも言える、避難者の以前の生活に近づけることを考えること
- 日頃の生活にどこまで近づけられるかと工夫して取り組みましたが、物質があまり無い状況で改善していく難しさあった
- 避難所運営について、それぞれの状況を体験、確認することができ、多様な目で意見を出し合い、改善、運営して行くことが重要であり、又、情報を伝えるには「伝わったか」どうかが大切であると感じた
- 避難所運営について、それぞれの状況を体験、確認することができ多様な目で意見を出し合い、改善、運営して行くことが重要であり、又情報を伝えるには「伝わったか」どうかが大切であると感じた
- 実際の現場での話が聞けて有意義だった
- 書籍では避難所のことが書かれていたものはよく読んだが、洗たく物の重みなど、実際にやってみないと分からないことが体験でき、とても有益だった
- 個人間の性格が異なるので、その個々の要求度満足度を高めるための方法。順序を学べた
- 意見交換の際、一日目の講習が生かされていないのが残念

矢掛町

- 実際の例を挙げて説明いただいたので、とてもイメージしやすく理解できた。
- コミュニケーションが大切である事を実感した
- 実際に困ったことや経験者の話を聴きながらだと理解が深まった
- 実際に作られた避難所の状況から改善点を見つけて進めていくやり方が分かりやすかった
- アイデアや気づきがいっぱい出た
- 実際は問題点が次々と出るのだろうという事が容易に想像でき避難所運営の難しさを感じた
- 参加者の皆さんがそれぞれの視点で細かな点まで改善を行なっていて感心した
- 「演習の目的・ねらい」の部分で、「地域の文化」に配慮する視点が非常に重要だと思う
- 一人ひとりのニーズに応えることだけでなく、地域が持っている背景にも配慮できると、より良く円滑に支援ができるのではないかと思った
- 「気づく」ためには、単に講義形式の研修を受けるだけでなく、今回のように実際に見て、自分たちで改善する過程で養われるものだと感じた
- 改善後の共有の時間に、講師二人が、良い点だけでなく、実災害を踏まえた更なる改善ポイ

ントまで伝えてくださっていたのが良かった

- 実際の避難所場面を設定し、具体的な対応を検討した演習は非常に有効だと感じた
- 担当の演習をグループで一緒に考えたこと、様々な視点から考えを聞くことができた。他のグループの発表も細かな配慮と改善策がアイデアとして示され、学ぶことが多かった
- いろいろな立場の方の知識を知ることができ勉強になった。ちょっとした工夫で、よりよい生き方に少しでも改善することで笑顔もでてくると思う
- 実際にスペースを作られグループ事に検討する方法は非常に良かった
- 避難所における女性の必要性を痛感した
- もっと難しいと思っていた避難所設営、運営が身近に感じた
- その方の状況その場所のあり方等を考慮した演習がなされていた。細かな配慮をしているグループもあり参考にさせていただく
- 目線の使いわけ(運営者目線で判断する場合の使いわけ)が難しい
- 実践的に見直しするワークショップは初めてで、避難所運営についてより深掘りできた
- 被災者の立場に立って、こまやかな配慮がいたと思った
- 自分達で演習することの大切さや避難所で限られた物の中で工夫をすることが重要
- 演習を行うことにより、更に避難所で大切なところ、気づきなど大変勉強になった
- 今後とも私も回りの人と話しながら、考えていきたい
- いろいろな現場を再現して実際に改善をすることは、理解が深まり良かった
- グループ内の話し合いで、多様な意見やアイデアを知ることができた
- グループの中にはいろいろな知識と技術を持った方がいる
- 実際に、体感して、次善的を、自分ひとりなら難しいが、他の協力者がいれば実行できる
- 各場所に分かれての発表があり、とても細やかな気配を必要としている事が分かった。一人では気付けない事も多い中、協力しあって解決することの大切さがよく分かった
- 自分では、考えつかなかった、課題と生活環境の整備が学習できてよかった
- 被災者ファーストで声かけ、気配りが一番だと思った
- 被災者の立場に立って考える事の難しさを再度実感した
- 演習の環境がリアルの被災地の状況に近いとの事で、課題の多さを感じた
- 各セクションを回った時には気付かなかったことでも、グループでの話し合い各グループの発表を聞いて、あらためて気付かされる点多かったこと、やはりいろんな視点を話しあうことの大切さを痛感した
- いろんな場所生活につながる場に対して被災者の立場に立ち気づくことが大事だと感じたが、十分な気づく力が足りないことを痛感。こういう実践を重ねながら、力をつけていきたい
- 食事の大切さや、食事中でのコミュニケーションの大切を知った
- 改善点などを話し合いいろいろな意見が聞けてよかった
- 演習することが1人より2人で、想像以上に力が発揮できたと思う
- 人によっては内容が濃すぎるためキャパオーバーする人もいるのではないかと
- 情報量が多すぎて、消化不良気味
- もっと演習のペースをゆっくりとしっかりと時間をかけて行いたい
- 8ヶ所に別れたが、半日2ヶ所くらいでもよいぐらいかと思った

Q3. その他気になったことなど

上田市

- 受付での迫真の演技で、役所(自治センター)と避難所との連携がとれていないところにイライラと不安を強く感じた
- 実際その場になったらどうなるか不安も多い
- 実際に災害があった場合、ボランティアとして、どの位活動できるのか、不安もある
- 研修を生かす方法について考える機会があればよいと思う
- グループの仲間が増えたこと、感謝
- 自分が被災者になったことがないので、なかなか被災者側に立てないまま、考えていたことが多かったように思う
- いろいろな方が集まってひとつのことを成し遂げようとするときに、それぞれ様々な考え方や視点がありその話を聞くことができるとても良かった
- 日本赤十字の丸山さんの講義も分かりやすくとても良かった
- もし、自分の身におきたときに、どうなるのか不安に思う
- 弱者の方々には新ためて、手厚い支援をしていかなければと感じた
- 場が外から切りはなされた場にあったこともあってか、大変に時間が短かく感じる
- 演習広い場所で(体育館など)できたらもっと良かった
- 8つのシーンを3分間で見きわめることの難しさ
- グループワークにすることで、主体的に学べて良い
- 1ヶ月2ヶ月と長丁場になった場合のボランティアの継続は大変
- 本研修を今後、市内避難所単位で実践形式することが重要だと、改めて感じた
- カメラで繋いで実際に改善したブースを見せるのは分かりやすくてよい

前橋市

- とても意義のある研修で、参加者の皆さんも多くのアイデアを出していた。時間はやや短くしてもよいと思った
- 他グループの話を聞きながらたくさん気づき、視点に勉強になった
- 多くの方が熱心に研修に参加していて嬉しかった。他地域でもこの研修が増えるといい
- グループで知識を出して問題解決することはとても良い
- 生活環境の改善のワークについては各班が虫の目になりやすいので各班代表者による(受付・物資・ベッド等)、方針の共有等の島の目視点ワークがあってもよいと感じた
- グループ内での赤十字関係の話を聞いたのが参考になった。自治会でも講習を考えたい
- 実践的でとても新しい研修で実のあるものだった
- 障害者としてどうやって対応するか知りたい
- 記録者の位置づけが気になっている。社協も倉庫の設置等が環境的なこともあり大変らしいことを聞くので地域の中でやはり「防災」を感じて欲しいと思う
- 疲労感はあるが現実を考えるとどのように休息をとるかが課題かと思った
- 避難中の介護サービスの実施、中長期化してきたときの避難所と介護保険サービス、障害者支援サービス事業所とが連携をとって支援体制を充足させていくといいと感じた
- 避難所運営には細やかな気配りが発揮されるのを実感した

- 多勢の人達が集まるといろいろなアイデアが生まれることを実感した
- グループで様々な意見を出して、一人一人が意識を高く持って課題に取り組むことができた
- 施設管理者役の人がいたらもっとリアルな演習になったと思うが、情報量が多すぎる
- 一日がかりの研修は体力的にもかなり負担になっている。本日、雪で足元が悪く寒かったので、外靴用の袋とカイロの用意は受講生に好評だった
- 時間が少々長すぎる。せめて午前二時間午後二時間くらいが理想
- できればほかのスペースの人から気づいた事や質問を受けて欲しかった
- 避難者のための避難所である事を忘れずに。解説を聞けるので理解が深まる。感染予防に気を付けて欲しい。人口の検温等、換気の徹底
- ハンドマイクの周波数が高く、高音部が聴き取り難かった。大会面で多数の人への伝達の難しさが有ると思うがよろしくお願ひしたい→研修場所・人員数等を考慮願ひたい
- 実際に避難所の運営がスムーズにできるか不安
- 今回改善活動をしたところ張り紙や注意書きなど文字等による情報が多いと感じた。視覚障害や文字を認識しにくい方への配慮などの話も聞きたいと思った
- 一緒のグループの比較的高齢の受講者の方が、講師の女性の声質が高くて耳に入らずずっと何を言っているか分からないとおっしゃっていた。この講座の受講者も比較的高齢の方が多いので、そういった方へゆっくり話したり落ち着いて話したりする配慮もあるといい
- 研修後半、スペースの改善点を解説している間、受講生に疲れが見えたのが気になった。

美浜町

- いろいろな地域からいろんな経験を積まれた方々とのワークショップはみのりが多く、学ぶことが多かった
- タイムテーブル、適度に休憩はさみながら、ワークショップで飽きずにできた
- 温かい飲み物、うれしかった
- いろいろな経験をしている人の話を聞けるのは本当に楽しい
- 課題もたくさんあるのでもち帰って話し合っていきたい
- ひどい状況を制限時間内で改善するという体験はとても参考になった
- 演じる人への声かけを通じて、ポイントがよく分かった
- 置かれた環境は人それぞれ、その人に合った寄り添い方が必要と感じた。
- 参加者みなさまの体験を、ぜひ周りの人々に伝えていただきたい
- 1日通しては長いのかな、と思っただけ、あっという間
- 案を考えるだけでなく、それを実際にやってみることまでできたのはとてもおもしろい
- 地区へどうフィードバックしようか
- 目には見えない課題が沢山ありすぎてどうしたら解決できるのか積極的に取り組みたい
- 相手の立場に立って、人を中心にしてその困難さを考えるとよく分かると思うが、その人の立場に立って、その気持ちや環境下を考えると改善できればよいが重い気持ちを背負うだけになることもある
- 思いを共有する、同じ方向性の考えを持った方たちと共に研修できて、とてもよかった
- 避難所の経験がないので多くの人が集まった時大変な事になると思った
- 体育館1つで講義と避難所の動線を考えることは難しいと感じた

- 午後の演習は座って話を聞いている時間が少し長くて、途中で集中力が切れた。午前と同じように改善されたスペースをまわって直接担当グループのメンバーに質問できると、動きがあってよかった
- マイクの声が聞こえづらかったです(生活不活発病の話の時)
- マイクの具合で聞き取り難かった(先生)のは残念
- 演習の発表のとき声が聞きにくかった

吹田市

- すごく充実した内容の研修会に参加できて楽しかった
- 吹田市防災リーダーの研修も受けていたので、おさらいも含めて学習できた
- 講師の先生方の解説で、「〇〇ではこんな方法でしたが」という説明が度々あった。避難所運営に正解は無く、その土地、その地域の実情に合わせて作っていくものなのだと理解したが、正解のない分、意見がたくさん出たときの整理が大変だと感じた
- スタッフ皆さまの本気の演技のおかげで、考えさせられる事が多く、身につく演習になった
- この研修に参加することがコミュニケーション力の向上に繋がった。女性一人はなかなか緊張した
- 防犯は非常に重要。トイレのライトアップや見守り、女兒を一人でいかせないなど
- 職場でも今回のようなワークをやってみたい
- 皆さんの熱心さに感動。これを近くの住人に伝えられたらどんな災害がきてもオロオロしなくていいのにと感じた
- この研修をブラッシュアップする機会を必要とする。いい思い出だったではなく、より太いパイプで繋がり、学びの機会、実践の機会をいただきたい
- 避難所生活や応援を実際経験したことがない人がほとんど(市職員含めて)であると思うので、この研修が終わった後も、一過性で終わるのではなく、継続的なフォローアップ研修を定期的に必ず行っていただきたい
- もう少し短い時間でスケジューリングしてほしい
- 時間が長すぎて集中できない
- 体育館の寒さは避難所としての対策はもっと考えなくてはならないと感じた
- 会場が寒かった
- 会場は寒かったが、真冬に被災するともっと悲惨な状況になるんだな〜と思いながらストーブにあたった
- 解説をされる方の声が聞き取りにくかったりして、少し残念に感じた
- マイクでの発言が聞き取りにくいことがあった。あとは寒い

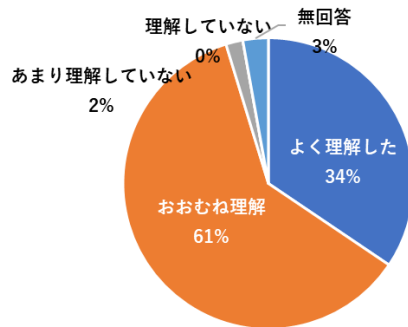
矢掛町

- 演技されていた方の気持ちも聞くことができて良かった
- 長時間ということで不安もあったが、内容の濃い充実した研修であつという間の一日だった
- 避難所経営だけでなく、日頃の活動に共通したものが多い事が分かり、とても役立った
- 参加する前は、時間がとても長いので間延びすると思ったが、実際は時間が足りないくらい
- 「自分たちで考える経験」が発災時の避難所運営にいきてくると思うし、「参画する余地がある」ことも、より良い環境に改善し、保っていく意識を生むことに繋がると感じた
- 住民が避難所運営を体験しておく、住民主体の避難所運営が行いやすくなると思った

- 自分達のグループでもう少し時間をとってもらって互いに話し合えたらと思った
- 今回は地元の方が多くですが、多職種で参加すればもっとよいものになると思う
- 避難者はお客さんでなく、自分たちで避難所を運営して行かねばならない
- 避難所生活1ヶ月たって、かなり生活も安定した頃の問題が今日の研修内容であるとするばこれまでに避難所運営の態勢づくりがどうであったか疑問に思った。
- 最終的には、実際、避難している施設を訪問して見学することが必要であると痛感した
- 今日の研修は、より具体的になり、イメージしやすく、自分がもし、何らかの災害で支援することができるなら、今回のことは、忘れることなく、役立てたいと思った
- 被災者側と支援側どちらも理解できたように思った
- このような中長期の避難になると、被災者の意識が大切。主体となって"参画"、風とおしのよい避難所グッド・コミュニケーション
- 被災者がお互いに許しあえる関係を築く大切さ
- 避難場所である体育館などは、本来、人が生活する場所として設計はされていないため、どこまで生活環境の整備の対応ができるか、今から対応できる準備をしていきたい
- この講習、演習形態を前もってある程度把握していればある程度の対応、考え方ができたと思う。現実味に欠けていたように思う。実際の対応は違ったと思う。
- もっと時間をかけて行ってもよいと思う
- たくさんの知識、情報を教え込みたいという主催者側の気持ちも分かるが、受講者に困難な状況を体験する時間を十分に確保していただきたい。あまりに一方的な時間が多いと感じた
- 現場説明の時、言葉が聞きとりにくかった

Q1. 3日目の全体の内容の理解度、長さ

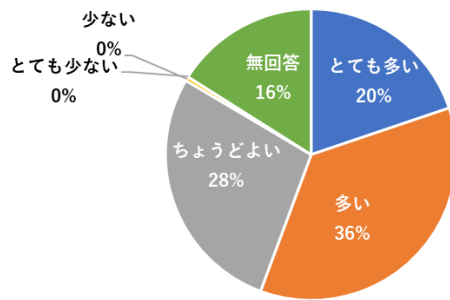
○理解度 (N=212)



95%が「理解した」と回答

市町村名 (N)	よく理解した (%)	おおむね理解 (%)	あまり理解していない (%)	理解していない (%)	無回答 (%)
上田市 (N=55)	33%	60%	2%	0%	5%
前橋市 (N=55)	36%	60%	4%	0%	0%
美浜町 (N=29)	45%	52%	0%	0%	3%
吹田市 (N=30)	37%	63%	0%	0%	0%
矢掛町 (N=43)	26%	67%	2%	0%	5%

○情報量／長さ (N=212)



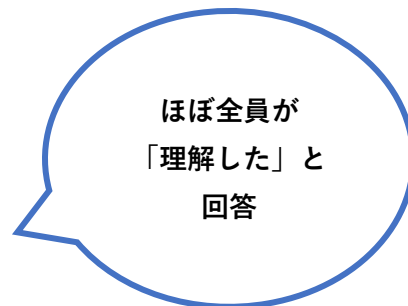
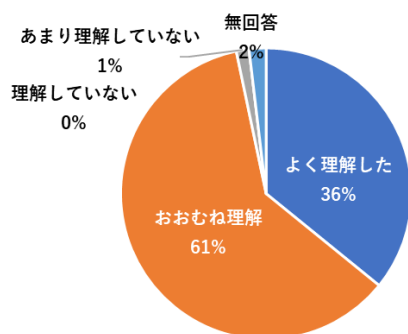
56%が
「多い」と回答

市町村名 (N)	割合														
上田市 (N=55)	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回答</th> <th>割合</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>とても多い</td> <td>26%</td> </tr> <tr> <td>多い</td> <td>40%</td> </tr> <tr> <td>ちょうどよい</td> <td>18%</td> </tr> <tr> <td>無回答</td> <td>16%</td> </tr> <tr> <td>少ない</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>とても少ない</td> <td>0%</td> </tr> </tbody> </table>	回答	割合	とても多い	26%	多い	40%	ちょうどよい	18%	無回答	16%	少ない	0%	とても少ない	0%
回答	割合														
とても多い	26%														
多い	40%														
ちょうどよい	18%														
無回答	16%														
少ない	0%														
とても少ない	0%														
前橋市 (N=55)	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回答</th> <th>割合</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>とても多い</td> <td>16%</td> </tr> <tr> <td>多い</td> <td>35%</td> </tr> <tr> <td>ちょうどよい</td> <td>33%</td> </tr> <tr> <td>無回答</td> <td>14%</td> </tr> <tr> <td>少ない</td> <td>2%</td> </tr> <tr> <td>とても少ない</td> <td>0%</td> </tr> </tbody> </table>	回答	割合	とても多い	16%	多い	35%	ちょうどよい	33%	無回答	14%	少ない	2%	とても少ない	0%
回答	割合														
とても多い	16%														
多い	35%														
ちょうどよい	33%														
無回答	14%														
少ない	2%														
とても少ない	0%														
美浜町 (N=29)	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回答</th> <th>割合</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>とても多い</td> <td>7%</td> </tr> <tr> <td>多い</td> <td>31%</td> </tr> <tr> <td>ちょうどよい</td> <td>34%</td> </tr> <tr> <td>無回答</td> <td>28%</td> </tr> <tr> <td>少ない</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>とても少ない</td> <td>0%</td> </tr> </tbody> </table>	回答	割合	とても多い	7%	多い	31%	ちょうどよい	34%	無回答	28%	少ない	0%	とても少ない	0%
回答	割合														
とても多い	7%														
多い	31%														
ちょうどよい	34%														
無回答	28%														
少ない	0%														
とても少ない	0%														
吹田市 (N=30)	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回答</th> <th>割合</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>とても多い</td> <td>27%</td> </tr> <tr> <td>多い</td> <td>27%</td> </tr> <tr> <td>ちょうどよい</td> <td>43%</td> </tr> <tr> <td>無回答</td> <td>3%</td> </tr> <tr> <td>少ない</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>とても少ない</td> <td>0%</td> </tr> </tbody> </table>	回答	割合	とても多い	27%	多い	27%	ちょうどよい	43%	無回答	3%	少ない	0%	とても少ない	0%
回答	割合														
とても多い	27%														
多い	27%														
ちょうどよい	43%														
無回答	3%														
少ない	0%														
とても少ない	0%														
矢掛町 (N=43)	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回答</th> <th>割合</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>とても多い</td> <td>21%</td> </tr> <tr> <td>多い</td> <td>39%</td> </tr> <tr> <td>ちょうどよい</td> <td>21%</td> </tr> <tr> <td>無回答</td> <td>19%</td> </tr> <tr> <td>少ない</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>とても少ない</td> <td>0%</td> </tr> </tbody> </table>	回答	割合	とても多い	21%	多い	39%	ちょうどよい	21%	無回答	19%	少ない	0%	とても少ない	0%
回答	割合														
とても多い	21%														
多い	39%														
ちょうどよい	21%														
無回答	19%														
少ない	0%														
とても少ない	0%														

Q2. プログラム項目それぞれの満足度、印象に残ったこと

基礎講座1 対人コミュニケーション

○理解度 (N=212)



市町村名 (N)	理解度	割合
上田市 (N=55)	よく理解した	29%
	おおむね理解	67%
	無回答	4%
	あまり理解していない	0%
	理解していない	0%
前橋市 (N=55)	よく理解した	40%
	おおむね理解	56%
	理解していない	0%
	あまり理解していない	4%
	無回答	0%
美浜町 (N=29)	よく理解した	48%
	おおむね理解	48%
	無回答	4%
	あまり理解していない	0%
	理解していない	0%
吹田市 (N=30)	よく理解した	34%
	おおむね理解	63%
	理解していない	0%
	あまり理解していない	3%
	無回答	0%
矢掛町 (N=43)	よく理解した	33%
	おおむね理解	65%
	無回答	2%
	あまり理解していない	0%
	理解していない	0%

○印象に残ったこと

上田市

- やる気のある人達が多くいたのに驚いた
- マインドテクニック、姿勢・目線。どういう気持ちなのか想像して向きあいたいという気持ち、伝わらない
- アイスブレイク、イメージ体感、が楽しく、おもしろかった
- イメージで絵を描いたが一人一人全く違った絵になっていたことに驚いた。相手との信頼関係を築くためには多いにコミュニケーションを持ち理解していくことの大切さを感じた
- 災害は起きるということを前提にした研修で、1つ1つ考えさせられた
- 互いを知る上で重要な事と再認識した
- まずマインドという事。テクニックに走りがち
- 想像するという事、伝わるのだということ
- コミュニケーションスキルの重要性を再認識した
- すぐにコミュニケーションがとれた
- 相手の気持ちを理解するコミュニケーションのとりかた
- 話をどう聞くか、どう話かけるか…1回で信頼関係がつかなくても、心を持ってその人の心状況を気づくことが大事
- 被災者の気持ちをきくための工夫で、まず、自ら挨拶をする
- 同じことを言われても、皆どうとらえるか違うことを理解しておく
- コミュニケーション力が大切で、被災者の気持ちに寄り添うことが大切
- 相手の思いを理解することの難しさを感じた
- マインドとテクニックが基本。コミュニケーション技術を身につける練習
- 人は見た目と声のトーンで93%が決まる。いかに話やすい雰囲気をつくるかということが大切だと実感した
- ボランティア側の意謝の持ち方
- まずは健康で今の様子を知る
- 被災者の苦しい立場を理解した上で、コミュニケーションを取るには声掛けの技術より、寄り添う気持ちが大切
- 同じことを言っても(聞いても)皆、個々受けとめ方が異なる
- 「がんばって」という言葉は、被災者にタブーであるがまずは信頼関係をきづくことが大切

前橋市

- コミュニケーションには一定のテクニックが必要ということ
- 被災者の心に寄り添う事の難しさとコミュニケーションの取り方
- 相手の気持ちに配慮した言葉を選んで話をするなど気を遣う必要性が分かった
- 被災者の気持ちを聴くためのポイント
- まずはテクニックより健康に次の生活へと願う気持ちが大事という事
- 同じ目線で対応すること
- 生活再建に向けて避難所の中ではここちよく過ごしてほしい
- 人によって違う事を理解した
- コミュニケーションの取り方の基本事項

- 五感を使って表現する、生活再建を願う気持ちが何より大切
- 本日は対人間という部分の一番重要な部分だったのだと思った
- コミュニケーションには一定のテクニックが必要というこの取り方、男女年齢関係なく平常心で対応できるという
- コミュニケーションに必要なスキルも方法の一つとして学ぶことができたのは良かった
- 相手のふところに飛び込むこと
- 共感・受容話を聞くことの難しい
- 同じ言葉を理解してもイメージはそれぞれ違う
- コミュニケーションのテクニック、聴くためのポイントなど分かりやすく普段から使ってみようと思った
- 一人で判断せず関係者とよく協議する
- ポイントなど説明してよかった
- 対人関係のノウハウが理解できた
- 気持ちを聴くためのポイントやコミュニケーションテクニック
- 被災者への声かけ等勉強ができた
- 話を聴く、理解することの大切さ改めて理解した。ポイントを忘れないようにしたい
- 保健師さんがどうやってラウンドするのか、どんなことを聞いているのか、そんな具体例も知れると良かった
- コミュニケーションには言葉だけではなく非言語や准言語があるので、それがとても大切だということが改めて実感した
- 被災者、避難者に寄り添うこと、少し実感できた
- まだまだ力が及ばないと思った
- 助けてと言える避難所のお手伝いできればと思った

美浜町

- 一人一人違う人との関係を作ることの難しさがあった
- 普段仕事で意識していること、改めて大切なことだと実感した
- アイスブレイクの絵、流れ星はほぼ同じイメージでも魚、犬になるとみんな描き方、構図もまちまち。分かったつもりでいると齟齬をきたす
- 人それぞれに捉え方が違う。感情表現を大切に
- ボランティアがゴミだと思った物は、被災者にとっては その人の人生が詰まった大切な"もの"なのかもしれないということがとても印象に残った
- 人と一人の繋がり大切さ
- 被災者と波長を合わせる
- 知らない人(はじめて合った人)とお話する事は難しい、ましては、理解する事はとても大変
- 被災者への声かけのやり方について分かった
- 多様な人への対応の大切さを新ためて感じた
- 一方的な支援にならないようにする
- 気持ち、想いを伝えるテクニック、コミュニケーションが大切だとあらためて分かった
- 一人ひとりへの対応について勉強になった
- 写真の補促があつて分かりやすかった

吹田市

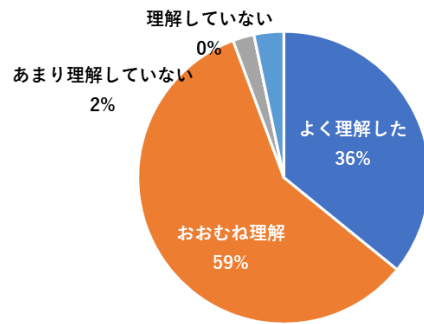
- ロールプレイがあって分かりやすかった
- 気をつけるポイントが分かっているけど、話す場になると難しい
- 住民の方の私物をゴミとして片付けるのは、失礼なことなんだと知った。相手にとっては大切な思い出のものでもあるということをおぼろげに忘れないように心掛けたい
- いろいろな人達にいろいろな困りごとがあると再認識した
- 良きチームメンバーに恵まれ、若い2人、75歳、77歳の昔の若者と女性1名でワイワイと語りあうことができた
- 人により感じ方見方が違うこと、言葉の難しさを感じた
- 同じ一言でも、相手の状況によって受け止め方が全く変わるということ意識してコミュニケーションしていかないといけないこと
- コミュニケーションを図るには、相手に寄り添い信頼関係を作ることが基本、そのうえで技術や工夫、いろいろな人の力を借りることが大事
- 人とのつながりが基本だとあらためて認識した
- 人から話をきくことの難しさ
- コミュニケーションに重要なポイントが分かりやすく、役に立った
- 男性参加者が多いので、女性のききとりには、女性が必要と男性も強く思ったこと
- 被災者の困りごとをどう聞き出していくのか

矢掛町

- コミュニケーションの基本や技術、工夫例など、災害時だけではなく普段の生活にも役に立つ内容だった
- いろいろな考えや、見方があることが分かった。思いを同じにする仲間がいて、安心した
- 被災者の気持ちを聴くための技術や工夫が、自分が思うよりたくさん考えられること。そしてそれはあくまで一例であること
- 被災者に興味（という言い方は適切ではないかもしれませんが）を持って接することで、相手を知っていき円滑なコミュニケーションに少し近づけるかなと感じた
- 話を聞くだけだと、簡単なようだが、実際は大変
- 気持ちや想いをどのような言葉で伝えるか、また傾聴力、共感力も大切だと改めて感じた
- 被災者の気持ちを聴くための技術や工夫例が分かりやすく説明された
- 人の目に合わせたコミュニケーションを学べた
- 職業上、対人援助の基本姿勢は十分理解しているが、一番難しいスキル
- たくさんの人たちがベクトルをそろえて活動するためには情報共有認識共有、合意形成が不可欠だと思った
- 分かり易い説明で、私なりにかみくだいて頭の中に取り入れることができた。
- コミュニケーションテクニックが苦手なので、自分の力をつけていきたい
- 同じ事項でも人それぞれの理解があり、共有化の仕方が重要
- 相手との距離感を考えていく大切さ
- 避難所の実態と被災者の接し方
- 対応する人間によっての声かけの仕方、タイミング、中身が考えさせられた

ワークショップ1 対人コミュニケーション

○理解度 (N=212)



ほぼ全員が「理解した」と回答

市町村名 (N)	よく理解した (%)	おおむね理解 (%)	あまり理解していない (%)	理解していない (%)
上田市 (N=55)	33%	58%	4%	0%
前橋市 (N=55)	38%	58%	2%	0%
美浜町 (N=29)	52%	41%	0%	0%
吹田市 (N=30)	30%	67%	0%	0%
矢掛町 (N=43)	35%	60%	5%	0%

○印象に残ったこと

上田市

- 被災者役の方にどう声がけしていいかなんだかわからなくなった。毎日仕事で利用者さんと話しているが、自信がなくなった
- 本当に被災者の気持ちに寄り添えているのか疑問が残った
- 被災者に話を聴くことの難しさ、つい聴きたい聴きたいと焦りが出てしまいもっと余裕を持ち、時間を掛けて接していければ良かったと反省が残った。それでも皆傾聴の気持ちがあふれ良い研修になったと思う
- 人の気持ちに寄りそうことの大切さ
- 日常的に言える事として、人との対話は大切で有る。日常の中で対話術を学ぶことができる
- 女性参加者のパワーがすごい
- ロールプレイで被災者役を担当し、思い出深いこととなった
- 自分のコミュニケーションの"クセ"を意識する
- 自分はコミュニケーションをとる時に、なかなか言葉にならなかったということが分かった
- 人の気持ちに寄りそう難しさ
- 講座で学んだ事をGWで深められた
- それぞれの役におけるその人の立場や役割
- 被災者と信頼関係を作ることの大切さ
- 最初の言葉がけきっかけづくり。関係づくりの大切さを感じた
- 相手の思い、悩みをしっかり受けとめる
- 訪問するにあたっての人員の選定から大切。最初の、一言目の難しさ
- 被災者から信頼を得るためには時間や工夫が必要。焦らないこと
- 民生委員としても同じ大事なこと
- お互いの信頼関係をつくることができれば、寄り添ってあげられる、相手も心を開きやすくなる
- 被災者へたずねる質問の内容とカリズムが難しかった
- インタビューは1回だけではない。1番は命、健康で、相手に寄り添う気持ち
- 自分の感覚と回わりの方のとらえ方の違いに気付いた
- みた目の判断と心の内は違う。相手の立場に立つことの大事さを知った
- 聞き出すことに集中しすぎて、間の取り方などもっと基本的なことを大切にしないでしまった
- 女性に対して、いろいろ話しかけることの難しさを感じた

前橋市

- ロールプレイを実施したことで参加者の皆さんがスキルアップしていたのか分かった
- 話を伺っている方の抱えている問題点など聞き出すのは簡単ではないことが分かった
- どの参加者も目線の高さに気を付けて聞き取りをしていたこと。実践的で良かった
- ロールプレイは実際にすることで身に着けたり気づいたりすることができた。気持ちを聴くことは難しい。その人の立場に立って考えること
- 助けたいお手伝いしたいという気持ちがあけすけになって感じたという意見が心に残り寄り添う事の大切さを考えた
- 言葉のかけ方で心を開いたり、閉ざさせてしまったりと声掛けは難しい
- 人との接し方について改めて学ぶ機会となった
- 自分のクセを知る

- 被災者の方からの話による困りごとの聞き取りは本人の立場になって、目線を合わせて話す
- 被災者として演じてみて運営側の困りごと引き出し方の大変さを知った
- 女性の視点はすばらしいと思った
- テクニックスキルも大切だが心を込める相手を思う態度・姿勢が重要という事
- 被災者の方の真にせまった演技にどう声掛けをしてよいのか言葉が詰まってしまった。一方的に聞いてしまいそうで日ごろ職場で子供たちに接するよう心掛けたい
- シーン別に道具なども活用しながらロールプレイをすることで被災者側支援者側それぞれの気持ちや困難さを知ることができて良かった
- 型にはまった掛け声ではなく世間話から入っていくほうが良い
- 聞くことの難しさが分かり聞く心を心掛けたい
- 一方的に訴えてくる人、何も訴えてこない人、様々な人への対応を考えていくことが難しい
- コミュニケーションのテクニックは心がけでは相手との繋がりを持ちづらいので最低限必要
- イメージ体感や実際に被災者になってみて気づいて今までわからなかった感情を持つことがすごく勉強になった
- 相手の意思を尊重した行動をする
- ロールプレイの体験がよかった
- 人に寄り添う言葉使いにとまどうことが多かった
- 実践での難しさがよく理解できました
- 一言目をどういうあいさつで話そうか考えたこと
- 声かけ時がとても緊張する
- 感じ方考え方が皆それぞれのため一つのことでも多数の意見がることが分かった
- 気持ちを理解する。いろいろな人に対しての声掛けがあることを知った
- 被災された方の気持ちを聞き出すことが難しいと感じた
- 実際の現場ではないのに緊張しほとんどできなかった
- ニーズ調査の聞き取りの難しさ。聞き取る際によそよそしくなってしまう
- 話し方を少し変えるだけで、話しやすくなったり話しにくくなったりするのが印象的
- 相手がどのように感じるか、リラックスしてもらえるか、考え過ぎてしまうことが多かった

美浜町

- ロールプレイで経験したことで、より理解を深めることができ良かった
- 聞き取りの難しさ、関係を作る難しさを感じた
- ケースバイケースで経験を積み重ねないとできるようにはならない気がした
- 被災者役をやることで、話しかけられるスタートから相手が信用できるのか見極められていると感じた
- 被災者と言っても、その背景にある状況や気持ちが人によって様々。心を閉ざしてしまっている人をどうやって心の扉を開けてもらうのか。それにはコミュニケーションの『マインド+テクニック』が鍵を握るということが印象に残った
- 信頼関係をつくる難しさ。相手方がこうして欲しいと私達に伝えてくれようとする気持ちを起こさせる難しさ
- 話し易い様に、以前の暮らしぶりを聞いた
- 課題解決が目的ではなく被災者の困り事や心情を意識すること

- 実際にやってみて難しかったが楽しかった
- 被災者の背景まで思いをめぐらせ、聞きとるのはとても難しかった
- 相手の立場に立ってイメージする事は大切
- 役割を分担して声かけをしたり、演じたりして勉強になった
- 被災者の方に声をかけるのは勇気のいる事だし、立ち入って質問するのって難しいなと思った。ロールプレイを通して声のかけ方の練習ができてよかった
- 心情に寄り添うことの大切さは分かったが、難しさを感じた
- ロールプレイがとても楽しくできました。傾聴の難しさ感じた
- 被災者役の方の名演技により、現実を少しでも感じる事ができたように思います。
- ロールプレイを通して三者の立場を考えることができた
- リーダー/サポーター役をやったが、全々できなかつた。自分ができないという認識が改めてできた。
- 理解はできましたが、演習で被災者のニーズを聞き出すのは本当に難しい

吹田市

- 活発な意見交換があつて良かった
- 自分が被災者の立場になって、ほんとに放つといてほしい！という気持ちが分かつた。スタッフとして、しゃべりかけるより、普通の会話として、始めると心を開いてくれやすいことが分かつた
- 人対人の対応の難しさ。どこまでどのように話を進めたらいいのか考えさせられた
- いろいろな立場の被災者と話すことの難しさ。きっかけが大事。
- 被災者の立場を考える（想像）事ができたので、良い経験になった
- 情報を聞き出すことも大切であるが、まずは信頼関係を構築することが大切であると
- 被災者の一人ひとりに寄り添う難しさを感じています。最初の声かけは緊張した
- 相手の気持ちを受け止めて状況をお聞きする。ほっとかかれているのではない、考えてくれていられると思われるフォローする。その為にもメンバーの多様性が大事
- 演習はとても参考になった
- 人から話しをきくことの難しさ
- コミュニケーションはとても大事だなー
- 世間話しからコミュニケーションを取ることの大事さを知つた
- 被災者に初めて話しするときの大変さ

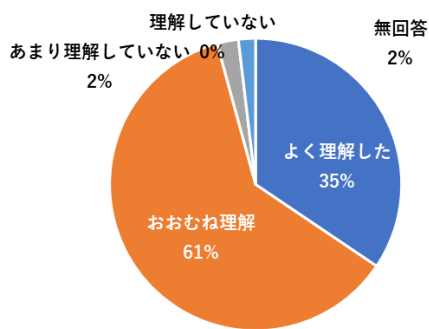
矢掛町

- 多様性を受け入れる感性
- やはり、困っている人とのコミュニケーションが難しい事
- どこまで踏み込むか、引き際はどこかを悩んだ
- 被災者役をしたが、被災者の立場になることでより理解が深まったように感じた
- リーダー/サポーター役をしたときに、被災者の置かれている状況やどんな声掛けをしたら失礼ではないかなど考えすぎて、言葉がほとんど出なかつた。研修の中で気づけてよかった
- 例のコミュニケーションの取り方がとても楽しく取り組めた
- シミュレーションをする事で理解が深まった。ロールプレイをされた方が上手で、楽しみながら研修することができた

- 被災者の困りごと、悩みごとを聞き出すのは、難しいけどただ話をするだけでもいいのか
- 対象者、場面設定が具体的でとてもよい学びとなった。グループの方が専門性があるわけでもないのに、「分かる分かる」「そりゃそうだ」「そう思うのはあたりまえじゃ」「こりゃ、困ったことじゃな」と方言つかいながら一緒に困る姿勢が懐に入りやすくやさしいことに気づいた
- 被災者に対しての質問のし方についての難しい
- 初めて会う被災者の方への接し方、質問のやり方、とても難しかった
- どこまで深くたずねるかという程度が難しいと感じた。個人情報保護のカベがとても気になる。
- このワークはイヤだという人が多いことを感じた。特に男性陣が難しかったように感じた
- グループの方の意見を聞くことができ、より深まりを感じた時であった。
- コミュニケーションの難しさを経験できて良かった。
- 演習をして、身につける事ができると再確認をした。
- 一人一人それぞれが多様な考えを持っていること、その為には自身の考えをキチンと伝えると共に、他人の意見を聞き入れる力が必要と思った。
- 災害の少な地域での生活で解からない事が多くあった
- 女性特有の問題をかかえている人に男(老人)では対処のハードルが高い
- どこまで、踏み込んで話したらいいのか、切り口が難しい
- 内容の深さをどこまでしたらいいのか難しかった
- それぞれの立場によりそえるようになりたい
- 初対面との対話がぎこちなかった
- 男児がいるシングルマザーへの聞きとりを行った。最初惑ったけどまあまあ上手くできた

基礎講座2 避難所運営の担い手との連携・協働

○理解度 (N=212)



約95%が「理解した」と回答

市町村名 (N)	よく理解した (%)	おおむね理解 (%)	無回答 (%)	あまり理解していない (%)	理解していない (%)
上田市 (N=55)	31%	67%	0%	2%	0%
前橋市 (N=55)	34%	62%	0%	4%	0%
美浜町 (N=29)	55%	41%	4%	0%	0%
吹田市 (N=30)	33%	67%	0%	0%	0%
矢掛町 (N=43)	30%	63%	2%	5%	0%

○印象に残ったこと

上田市

- 150人いれば150の不安と困り事がある
- 被災者の潜在的な困り事を理解し共有し合い、共に相談しながら具体的に対応して解決していくことが基本だと理解した。困り事を避難所運営に関わる多様な人々と共有し合い解決に向けて協力していく姿勢が重要だと学ぶことができた
- 協働について、互いの理解が大切で有りまた自分の意見も必要
- 事例紹介により、理解度が増した
- 見ため、声のトーン 97%
- 多くの人との情報共有
- バディを組むことの重要性
- 潜在的な困りごとをどう感じとっていくか
- 多くの人との共有することの重要性
- 分かりやすく講座を聞く事ができた
- 困りごとに気づくのか大切
- その人がどうしたいかつかむ
- 寝床でも(ひざまづいて)どこでも目線を合わせてお話をすること
- 潜在化している困りごととは何かをどのように抽出していく手法を学んだ
- 具体的に考える機会になった
- 情報を共有して、整理し、皆でアイデアを出し合うこと
- 環境づくりの大切さを学んだ
- まず気づくことそして情報共有→の過程の大切さが分かった。
- 表面的でない潜在化しているこまりごとをいかに引き出すか
- 自分が思っている以上にいろいろな人が運営にかかわり、その連携が問題解決に大きくかかわる
- 目に見えない内に秘めたことを引きだす。見つけるすべを探して行くこと
- 実際に演習できた事が体験として残る
- 支援する側として学びが多かった
- 担い手不足がある現実を考えさせられた
- 先生の言葉の使い方に癒された
- どこに(誰に)たのむとこの課題を解決してもらえるかということを事前に情報としてもっておくこと
- 被災者がどうしたいのかをまず考えること
- 災害前から地域の様々な団体を良く知り、つながっているということ
- 皆さんと手を取り合い協力し合える
- 想像力を働かせることとの重要性が分かった
- 被災者が本当にどうしたいのかを見極めること
- 多くの方々との意見交換ができ視野が広がった

前橋市

- チームで力を寄せ合い解決するということ
- つなぐ事の重要性・情報の管理
- 自分自身だけでは何もできないので連携・協働の必要性を理解した

- チームワークの大切さ、運営の担い手同士の共有・協働
- アイスブレイク、イメージ体感が良かった
- 「情報」の大切さを感じた
- 知らない、初めて会う人達が集まっている中でこそ報連相が非常に重要になること
- 自分で分からないことは情報共有してつないでもらう
- 課題解決の考え方・相手を知る
- どのように連携をはかるかは大切だと感じたが、実際に上手できるかは不安だが、一つでも困りごとを改善できるように協力をしたいと思った
- グループ内の皆さんに感じた頃思っていることとらえ方が聞くことができて良かった
- それぞれの専門職と連携、情報共有することの大切さがよく分かった
- 担い手が多くいること・連絡手段がある
- 各種のサポーターとの連携の重要性を認識した
- 様々な人たち、当事者も含めて協働していくことが大切だと思った
- 被災者の困りごとは表面だけでなく内部のものもある
- 一人で抱えず協力を求めていくことの大切さを感じることができた
- パイプ役は重要、一人で抱えないで伝えていく処理
- 状況を良く覚えてないと大変
- 担い手の種類がよく分かった
- 避難所に入ってくれない様々な組織の多さ
- つなぐ・つなげる・つながる
- 説明が非常によく分かりやすかった
- 連携や協働の大切さを知ることができた
- 困り事に対して被災者と一緒に考えること
- グループのワークはとても良かった
- 改めての気づきなどたくさんあった

美浜町

- 知識のないこと、経験の無さでうまく取り組めていない
- 皆さんの意見を聞きながらできることを探してみた
- 何かのきっかけがあれば動いてくれる そのきっかけを掴むのもコミュニケーション 想像力を働かせてみえにくい部分、本音を汲み取る努力
- 日々やることは一杯ある。できることを選べる環境づくり
- 被災者に寄り添い、心を開いてもらう上で大切なことは、共感できる話題、親しみやすい言葉(方言)などを駆使し、困り事は何かを知ること。そして気づいた課題を解決していくには、避難所運営に関わる様々な支援者(団体)とチームを組んで(共働)対応していくこと。
- その支援者には様々な人や団体があることが印象に残った
- 混乱状態の中被災者がたのしめて欲しい内容によって、私達の方が何所に？連絡して良いのか分からない事が起こるかも？
- 被災者自身にも役割を自主的に担って貰うには、どの様に声掛けすれば良いのか。
- 連携協働と役割分担が肝要
- 被災者自身が担える役割を見つけ、元気を出してもらえる様アイデアが大事

- 一人でやるより皆さんと協力して行う事が大事
- だれとどここの関係者とつながればよいのか参考になった
- 「つなぐ」ことの大切さ
- 多くの人との「つなぐ」を意識する
- いろいろな方々がみえるのでその方の様子を伝えるということが大切だと思った
- 自閉症の方の対応ができずスキル不足を感じた
- 役者を仕立ててやった研習が良かった
- 避難所運営に関与する担い手の多様性をはじめて学んだ
- 困りごとは人によって異となり、その答えを探すのは大変
- 避難所運営会議はできるだけ実施すべきと思った

吹田市

- 避難所運営の自治体スタッフだけで、なんとかしようとするのではなく、行政や民間組織の力も借りて対応に当たれるんだと知り安心した
- 被災者の必要としていることは会話を通じていろいろな角度から感じ取る事が大事
- 学ぶ所が多く、災害が発生すれば相当、役に立つのではないか
- 目的が問題点、困りごとを聞くのではなく、寄り添うことが大事
- 避難所運営会議のシミュレーションもあると良かった
- 被災者自身が、解決に向けて活躍できる避難所作りが必要だということが分かった
- 主な困り事を見つけてあげ、専門チームにその情報を繋げてあげる。どの専門チームが必要なのかなどの知識や人脈が必要と感じた
- 被災者の困りごとの把握、情報共有、被災者が運営参加できる体制を整えるためには、相互のコミュニケーションを図ることが大事
- 人から話を聞くことの難しさ
- 共働・自助・共助について考えさせられた
- 参加された方々と意思疎通ができてよかった
- 被災者が運営に参加できる体制をとということ

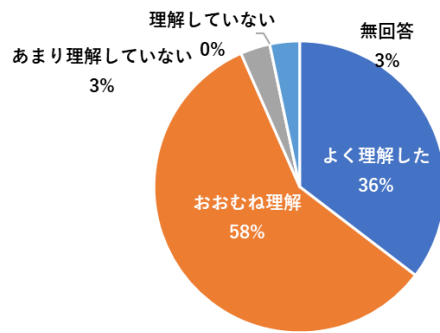
矢掛町

- 全員で取り組む問題解決
- 周りには、能力がある人が多いということ
- 連携の重要性は分かったが、連携の窓口があるのかどこに話を持っていけば良いのかそもそもわからなかった
- 一人（ひとつの団体）ではなく、想像していた以上に多くの人や団体が避難所運営に関わっていくことを知った。それぞれの強みを持ち寄って問題解決にあたっていく
- 課題発見・課題解決力は小さな体験の積み重ねだと思った
- 共感力と協働力は日頃から人との関わりの中で学んでいくことが必要だと思った
- 被災者の困りごとの把握の重要性
- 双方の可能性とキャバを理解し今の想いを知り、そこからの合意形成の大切さを再認識した
- 被災者が参加できる体制をととのえること。
- 1人ですべてができるわけもなく、たくさんの人たちとの協力、コミュニケーション関係性が不可欠だと思った

- 聴くスキル。その中で相手に考えていただくスキルの重要性を
- 具体的な説明でよかった
- 困りごとの気づきから次のステップ、そして、解決に向うやり方が理解できた
- 連携に対して、知らない集団が、多く、私の知識が深まった
- 今後は後継者を増やし運営して行かねばならない
- 特に重要だと実感した。避難所担い手との連携・協働がなくては進められない。まとめられないと実感した
- 水面下の事項を押しはかる必要がある
- 他の運営者との連携の実習をもっとし、協働の体験をしたかった
- 避難所運営は被災者、支援者、皆とともに協力する
- 具体的な課題がとらえられた
- 多くの人との協働が必要

ワークショップ2 情報共有・認識共有・合意形成の必要性

○理解度 (N=212)



94%が
「理解した」と
回答

市町村名 (N)	理解度	割合
上田市 (N=55)	理解していない	0%
	あまり理解していない	5%
	無回答	2%
	よく理解した	38%
	おおむね理解	55%
前橋市 (N=55)	理解していない	0%
	あまり理解していない	3%
	無回答	4%
	よく理解した	33%
	おおむね理解	60%
美浜町 (N=29)	理解していない	0%
	あまり理解していない	0%
	無回答	4%
	よく理解した	48%
	おおむね理解	48%
吹田市 (N=30)	理解していない	0%
	あまり理解していない	0%
	無回答	0%
	よく理解した	33%
	おおむね理解	67%
矢掛町 (N=43)	理解していない	0%
	あまり理解していない	5%
	無回答	2%
	よく理解した	28%
	おおむね理解	65%

○印象に残ったこと

上田市

- 被災者の様々な困り事の中からこれとは言うものをみんなで考え、その中で重要だと考えたときにグループの仲間と意見が一致して嬉しくなった。解決に向けて素人ながらみんなで考えていくことは大変勉強になった
- 情報共有については日常よりの報・連・相が大切で有る事をあらためて、感じた。
- 当事者の意見をよく聞き、みんなと共有すること
- 進行が良かった
- 練習のないことはできない。しかし、想定外のことに対応しなければならない。でも共有できる仲間がいること
- 隠れた被災者の心の中をいかに引き出し答えてあげられるのか情報が大事と思った
- 表面化していない問題への関心を持つこと
- コミュニケーション力と発信力をどうみがいていくか
- 困りごとの整理や対応等を GW で深められた。自身の弱い所も見直せた
- どうしたら解決できるのか。多方面から、意見を出し合えてよかった
- 情報を共有すること。相手(被災者)の立場に立った物の見方、考え方をすること。
- 見て聞いて、気づく。仲間と共有してやっていく
- 被災者の気持ち、を(理解し)共有しその人の身になって考える
- チームワークがなければ成し遂げられない重要性
- 被災者の心情や状況を理解して、共有すること
- まずは被災者の思いを理解することがすべてであると感じた
- 対策として NPO や地域のこと知ること大事
- いかに連携できる団体とつながるか、つなげられるかが大切
- 一人でやらずにペアで行くこと
- 自分の思いつかない、人の気持ちや、動きが多くあること気づく
- 心の問題の深ぼりをしていった点に、共感できた
- その人がどうしたいのか、いろいろなことを支援したいが、先ずは何を困っているか発見してみんなで情報共有して解決に向けて動いていく
- 相談しやすい状況をどうつくるか
- 多くの方々と一緒に取り組むことで被災者の選択の中が広がる
- 一人で考えずに、回わりの方と共有し、一緒に取り組むことの大事さを認識した

前橋市

- 関係団体の役割などがはっきり分からない部分もあったかと思った
- 皆で意見を出し合うことで自分以外の他の気づき等違う視点の問題に気付くことができた
- チームワークの大切なことが分かった
- いろいろ考えさせられた。P24 運営の担い手リストがありそうな内容だった
- 気付いたことをどのように情報共有し解決に結び付けていくのか難しく感じた
- いろいろな視点から見た情報を共有していくこと
- 住民の方にとって何が必要な情報で何が必要かを住民と共有することの大切さも少し分かった気がする
- 答えはないと言われたが、人の話を聞くともっと考えや思いが浮かんできている

- 話し合いをすることで「誰に」「何を」依頼するのかこれほどの団体に話をするのか整理して考えていくことは難しいと感じた
- 避難所の設営を研修に入れてもらいたい。各避難所の実際のレイアウト等を行う
- 他の人の意見等が聞けて改善する重要性を感じた
- 情報のアンテナも保持も必要と思う
- つなげることが大切だと思った
- 提案するときは誰の意見かはっきりさせる
- 知ったことを共有し発進させていくことの大切さを理解することができた
- 報連相と必要なことを共有する大切さを知った
- 要はコーディネーター力が必要と思った
- 意見交換など議論してよかったと思った
- 行政・自治体等の指示が重要かと
- 様々な場所での困りごとがつながっていたりしたこと
- 本当の避難所運営はきっと難しいんだろうと感じた
- 体験型は非常に役立つと思う。書物だけでは理解が不足
- 情報共有の大切さを知った。つなぐを大切にしたい
- 改善のためにどこにつなげばよいか
- 正確に情報を読み取る事。
- 最初、ワークショップの求めている内容がわからなくて戸惑った
- ワークでは、様々な内見が出てとても有意義だった

美浜町

- ポストイットでのまとめ方が迷った
- 自分でできることの提供、これがうまくできるようになるといいと思った
- 進め方、何を今求められているか、私もグループも??になった場面があった
- 地域資源、あるものを全て活用するため、どうしたら協力してもらえるか、信頼関係の構築のために今自分ができることは何かを考えて行動に移すことが大事
- それぞれ得意とする分野の人や団体に繋ぎ、様々な課題を解決していくこと。それには、平時からの協力関係(顔の見える関係)が大切であるということが印象に残った
- 被災者一人一人の困り事の解決策の大変さを感じた
- 支援者になりうる人たちの特徴を知らなかった
- 世代が違い分かりにくいときは無理しないで、大学生、専門職など幅広く相談すると良いことが分かった
- グループで話し合うなかで、いろんなアイデアが出てよい対応策がでて、勉強になった
- 被災者の心情や見えない悩み、悩みの本質をしっかりと捉えて、対応策を考えるのが大事だと思った
- 鳥の目・虫の目・魚の目 3つの目を持ちたい
- もとめている事ではなく自分の考えを言う事が大切
- 3日間で1番難しい課題。外の力に対するイメージがまだ少ししかできていないと感じた
- 組織の統一方向性を大切にしたい
- 自分が知らない団体が多数あった

- いろいろな支援や対応策があることが分かった

吹田市

- 皆さんの考えがいろいろ違って参考になった
- 一人では次に繋ぐ事が難しいが仲間に協力を求め迅速に解決に迎える事ができる
- 困りごとから、対策改善案を考えることがグループワークで楽しくできた
- 避難所に集まる支援者が多く関わるのだと理解した。必要な支援に繋げるために、被災者の困りごとをしっかりと聞き出す必要と、表に出せない不安や不満を話してもらえるよう、コミュニケーションを取り、信頼関係が必要だと思ったが、そこまでできるかが不安
- 一つの課題を解決する過程において、他のいくつかの課題解決にも発展することを知った
- 改めて共有の大切さを知る事ができた
- 主な困り事ひとつに絞り、そこをサポートしてあげることにより、他の困り事の解決策ができてきたこと
- ワークショップも3回目で皆さん、意見もまとめ方も向上した。被災者への対策も人によって考え方が違うので勉強になった
- 避難所運営は多様な被災者と、それぞれの「困りごと」の状況が違う中で、多様な運営の担い手との連携、協働が大事であること
- 人から話しをきくことの難しさ
- 色んなスキルを持つ人と協働することの大事さを学んだ

矢掛町

- 情報が多い事のメリットデメリットの複雑さ
- 見てまわったのが、とても勉強になったので、こうゆうワークショップの休憩時間に「見てまわってもいいよ」の声かけがあるといいと思った
- 物資についてグループで協力して発表することができた
- 記入方法（ねらい）の把握が少し難しかった
- 最後の発表ですが、同じテーマで話し合ったグループ同士で、ポスターセッションのやり方で話を聞いた方が良かった
- それぞれのグループの発表は、同じテーマを扱っていてもそれぞれ視点が少しずつ違っていた。多くの人に関わることによって、欠けたところを埋めていってよりよいサポートができるのかなと感じた
- 進め方がちょっと難しかったがいい経験になった
- 視点がそれぞれ違うこと
- 演習の意図、目的が良くわからなかった
- 課題がとても難しく感じたが、発表者の方がとても上手にまとめて下さり良いものとなった
- カテゴリー分けが難しかったが、グループ内で異なった視点からの取組(活動)が案として出されたので学ぶことが多かった
- 避難所に関わっている運営の担い手リストで知らないものがあったらよかったです
- 人によっていろんな考え、なやみがあることを学べた
- やってみること!! 昨日の避難所づくりも同様、大切だと思った
- 情報共有から合意形成までが必要性の確認
- 支援するいろんな団体や人材があること、この方たちとの連携のとり方

- すべてはその現場によって異なる。マニュアル通りにはいかないことが多い
- 基本的な理念というか、奥にあることに気づくこと難しさを感じた
- 全体像が見え、自分の中でもし、こういう場面、というか、直面した時に役立てたいと思った
- これが正解だけではなく、解決していく為の協力をしていくのに、いろいろな対応が必要だと感じた
- 合意形成の必要性がひしひしと理解できた
- トイレ掃除のところだったが、シートへの張りつけに少し理解に時間がかかってしまった
- 全て何事でも情報共有は必要
- 情報共有・認識共有が大事だと実感した。その後の合意形成でまとまれるのだと思った
- 最後の演習、短時間でうまくまとまった
- 多様な考え方がある中で、共通の理解がしあえる環境づくりの難しさ
- 被災者とともに解決方法にもっていく。具体策を考える一助になった
- 弱い立場(それぞれによってちがうけれども)より近づくことができればと思った
- 物資の項で、いろいろ活題な意見あった
- 各説明が聞きやすく受け入れやすかった

Q3. 3日間の研修全体を通してご意見をお聞かせください。

上田市

- 多くの方達とコミュニケーションがとれたこと、自分達のやる事が少しずつわかってきた
- 分からないことばかりだが研修に参加して良かった。いろいろな意見を人を知る事ができた
- 何と言っても被災者の方々一人一人に寄り添い話を聴き困っていることを理解する、そして被災者自身がして欲しいことやって欲しいと考えて決めることそれを引き出し共に解決しようとしていくことが一番大切だと学んだ
- 問題を多様な担い手と共有し、解決に向けてアイデアを出し合いサポートする、そのためにコミュニケーションを取り合うことの大切さも学ぶことができた
- 参加者全員が積極的発言し、OJT 実施もされ良かった
- 演習中心の研修で具体的な理解につながったように思う
- 寄り添う、共感の文言が多い被災現場で具体的にどう行動すること、どう改善するかなどについて、「心」を行動に状況の改善につなげていく姿勢の大切さ、有効性を実現していきたい
- 自分が被災した場合を考えたとき、避難所がどのように運営されるのか、大変だと思う
- 認識のズレということに直面し、どうするのかを協力して解決していくようなプログラム
- 避難所で普段通りの生活がいかにできるかが長丁場になればなるほど大事だと改めて思った
- 避難所を、具体的にイメージできるようになった
- 演習がとても良かった。3日間グループが変わり毎回コミュニケーションがとれて良かった
- 自分の住む所で、どのようなボランティア、NPO が有るのか、チェックしようと思う
- 3日間受講して難しかった。しかし新しいシステムが学べて良かった
- グループ毎のプレゼンを考えたプログラムが欲しい
- 体育館のような所で実際に体験してみるのも良いかも
- 被災者の方が、どうしたいのか、気持ちに寄り添う事が、大切であることを学んだ
- ハラハラ・ドキドキしながらの3日間だった
- 長丁場になるボランティア活動を継続するための工夫や心得
- 職場以外の方達と知り合うことで横のつながりができる。協力することで解決できることが多くなる
- 障害者や障害児への対応。初めての場所や知らない人たちの中での不安
- 3日間であったが充実した(特に演習)時間だった
- 避難所運営の支援者を育成するためのカリキュラムや指導法
- 災害救助法等の説明がくわしく欲しい(グループ2人の意見)
- 思ったよりもとても具体的な資料や演習で、分かりやすかった。量が多く、頭がパニックだったが、楽しく勉強できた
- 避難所運営のトラブル事例。主体性を引き出すコツなど
- 量が多く、十分であった
- 長野県内、もっともっと多くの地域で実施したい
- 自治体職員として、業務に役立てたい、ということで参加した訳ではないが、自治体職員向けの同じような研修であれば、点と点がつながるような感じがした
- 被災した時、先ずどこへ連絡し、どこへ協力を求めれば良いのか

前橋市

- 避難所の受付や食事ペース情報コーナーなどの効果的な配置について
- 自身を振り返ると子供の障害のこと、犬や猫のこと、外国語の対応等もう少し学びたかった
- 声掛けの難しさを感じた
- 過去に受講した研修よりもリアルで最もよかった
- 最後の情報共有・認識共有・合意形成についてより具体的にじっくり学びたい
- より具体的（演習を中心とした）内容（避難所運営）を学びたい
- 演習より実体験的に理解することができた
- 実際の避難所でのでき事とともに改善されてきた事などが知りたい
- 今後もこのような研修を受けられる機会があれば、自分自身の学んできたことを少しでも視野が広がるよう参加したい
- 今後は自治会や行政の方と一緒に避難訓練などできればいいと思う
- 組織の構図を知っていたほうが良いと思った。国→県→市→各市町村→自治体→自治会長施設管理者（校長）これを理解したうえで自分の立ち位置をさらに理解した上でうまく調整する必要があること。そうすると三日目の連携や協働の必要性より理解できる
- 地域互に被災形状は異なる。それに合った研修のほうが良い
- ロールプレイはやはり繰り返しが必要
- 中長期の避難所のことをもっと理解したい
- 一番深めたいと思ったのは声のかけ方をもっと学びたい。地域でどう平時に活動していけばよいかも知りたい
- すべてが未体験でとても素晴らしい講義
- 避難所の具体例をネットで調べてみたい
- 避難者との相互理解（コミュニケーション）
- 聴覚など（障害者）対応などしてほしい
- くりかえしの受講が一番
- 実際の避難所での状況が知りたかった
- 運営の担い手の方たちの会議についてどのような話し合いをするのか？
- 3日間ほんとうにどれも大切だと感じた
- 避難所開所期や閉所期の支援の例を聞くと被災者がどんなメンタル状態なのかが想像できる
- 二日間は長い

美浜町

- 段ボールベッドやテントの数、圧倒的に足りない現状の中どう対応するか優先順位の付け方
- 関連死をなくす、そのための気付きの視点や、個別ケース、よく練られていて分かりやすい例で学びやすかった
- 今ままで、避難所運営ゲーム HUG の研修は何度も受けたが、それは発災後数日のこと。今回のように1ヶ月後の(中長期に渡る)避難生活についての研修は初めて
- 所属するあいち防災リーダー会は、どちらかと言うと『発災前の啓発』にこだわって啓発を行って来た。被災者にとっては、発災から生活再建するまではとても長い道のり。その事に向き合うことができた今回のプログラムは、とても有意義だった

- LSとして活動する時に被災者の気持ちになり過ぎないように、いろいろなパターンを経験し、あの時あんな声かけをしたな、こんな解決策があったなと参考にできたら嬉しい
- 何より傾聴する力をつけたい
- 具体的な避難所(小学校)をどう部屋分けなどをして運営するかというやってみてみたい
- 多様な被災者への対応、特に外国の方やペット連れの方の対応についても学びたい
- 個人の問題的を多くの目で見、意見が共有できる事のすばらしさを多くの方に伝えてほしい
- コミュニケーション能力の高め方
- 3日間特に避難所の様子などいざという時具体的にわかってよかった
- 避難所の皆さん、担い手の皆さんとの会話には、相手を思いやる気持ちだけでなくノウハウもあると思う。とりわけ心が落ちている方への声かけには迷った
- 被災者とのコミュニケーションが大事であることと同時に難しく感じた
- 沢山の気づきがあった。地元に戻り何ができるか何をすればよいか

吹田市

- テキストで学ぶよりも遥かに充実したワークショップ内容で、大きな学びになった
- 実際に避難所運営に関わられた方々のご意見をいただけるのは良かった
- 三日間、チーム編成がかわり、いろんな方との出会いがあったのも良かった
- 行政は自宅で生活できるのであれば自宅避難と聞いた。代表者が避難所に救援物資を受け取りに行く、自身は分譲マンションで防災委員会にいらるのでいろいろな情報を知ることができるが、賃貸マンションの居住者は無に等しいくらい防災に関心をどうにかならないか
- 避難所には事情の違う方がいるので、あらゆる事を踏まえサポート役を行うことの大切
- LSが避難所での役割として大まかなことは、理解できたが、実際の場面で、いろいろな職種の方がいる中で、どこから指示を受けて動くのか、どこのチームに入り活動していくことが多いのかの具体的なことがわかればと思った
- 避難所には沢山の改善すべき事柄があると感じた。各地でどのような課題があり、解決したのか事例をもっと聞きたい
- 講義ありグループワークありロールプレイありと多岐にわたった研修は大変有意義な内容であった。また、受講者の意識の高さも刺激になり楽しくもあった。できれば倉敷市の三谷さんが経験した避難所話しや、避難所運営経験者の話しをもっと聞きたかった
- すべの研修に演習があり、より理解を深める事ができた
- LSの役割としてやはりコミュニケーション能力が最も重要だと感じた。避難者に対してだけでなく、他の支援者との良好な関係がより良い支援態勢をつくるのに必要と感じた
- 吹田市主催の講習も受けているが、まだ吸収しなければならない事があると感じた
- 今回、公民館の館長及び自治会の代表として参加致した。研修の内容は公民館や自治会の運営に役立つことが多く、たいへん満足できた研修だった。特にワークショップは楽しかった。被災者は常に新しい情報を求めているので、情報の伝え方やまとめ方、情報の共有方法を今後も勉強していきたい。これを機にコミュニケーション力も、日頃から実践し、養っていききたい
- 被災地での避難所運営(被災者の人数、構成、運営期間等)の実例があるとより理解が深まる
- これから、この三日間の研修を町内住民の安全安心のために活かしたい

矢掛町

- 支援の窓口をよく知りたかった
- 最後の実際の運営するワークショップをもう一度やってもいいかとも思う
- 過去の事例に基づく改善点などを知る機会があればと思った。
- できたら各グループにお一人、進行役やアドバイザー的な役の方についていただき、進める方がより深まった
- モデルケースなので、いろいろなやり方で試してみるのも良いと思った
- とにかく内容の濃い3日間
- 講師の方々がこれまでの経験から得た多くの知識・情報・ノウハウなどを惜しみなく提供してくださり、貴重な時間だった
- 演習のなかで避難所の疑似体験をできたことはよかった。平成30年7月豪雨の際に短期間でしたが避難所が開設された。何もできなかったのが後悔がある。実際の災害時には研修通りにはいかないでしょうし正解も一つではありませんが、万が一の際には少しはお役に立てたらいいなと思う
- 実際に連携できる外部機関の種類、また連絡の方法が知りたい。
- 対象者特に要配慮者への専門的対応をさらに具体化していくことは私達の課題
- 被災者への聴き取りの仕方¥x{2014}訓練の必要性を痛感
- 一人ひとりを大切にする。要望になるべく応えていく。この為にはよりコミュニケーション能力を高める(知識の獲得とか)など、もう少し時間があればと思った
- いろいろな方がいらっしゃる状況で、とても勉強になった
- 避難所の課題と生活環境の整備
- もりたくさんな、内容でしたが、なんとかやることができた
- 対人コミュニケーション講義(演習)が難しかった
- 今回は1ヶ月後の設定でしたが、できれば初期立上げ時のプログラムをやってもらいたい。
- しっかり勉強できたが、なかなか身につけません。3日目のコミュニケーションはもっと気がつく力と相手を気づかう力を身につけたい。
- 被災者の立場に立って考える事が多かったなのでその考えに寄り添い・より理解を深めたい
- 100日経過した想定避難所。こうした状況となれば、大災害ということになるでしょう。演習での体験は、日頃の生活の中でも、活かせることと思う
- 3日間のワークショップがリンクする内容にできたらもっと現実的な訓練ができるのでは
- 人間の尊厳を大切にする。被災者が主体であるが、今度は、自分が被災者になる。日本人である為にも、「お互い様」の精神を大切にしたい

Q4. 3日間のプログラムを通して、見直した方が良い点があればお聞かせください

上田市

- 被災者のための公的支援や、相談されたことの解決のためにどこへ繋がたら良いかなど過去にあった困り事の事例や相談窓口などを表にしてあると、それぞれの機関での働きも分かり繋げやすいと思う
- どれもためになり、目を開かされた
- 今まで、このような密で重く、ぎっしりとした研修は受けたことがなくはっきりおどろきと感謝・期待があり、受講できてよかった
- 初めてのe・ラーニング良かった
- ブースの設営準備など本当にお疲れ様でした。とても中身の濃い研修だった
- 少し疲れたけれど有意義だった
- グループ討議が大変、自分のものになった。この方法がよいと思う
- 1回だけでなく毎年おねがいしたい
- 色んな人の考え方や意見を知りたいので、3日間全て違う人とのグループ分けが良い。健常者のみでなく、障害を持った人の対応など
- 研修の3ヶ月後又こんな時間がほしい
- グループで話し合いの時間をもう少し長くてもよかった
- フォローアップ研修実施してほしい
- じっくり、テキストを読み込みたい
- スタッフの皆さんの笑顔や優しさがすてき
- 講義時間が少なく、演習が中心でよかった
- 事務局の皆さまがとっても丁寧で、終始気持ちよく受講できた
- 受講者に若者がいればより活発な研修になると思う
- タイトなスケジュールで、よく理解するまでには至らなかった
- とても体力的に疲れた
- 情報量多すぎ
- トイレに関することも学びたかった
- 学習の内容と中身が大変多いと思った
- 広い場所受講したかった
- 盛りだくさんすぎて、やや消化不良
- 時間で終了できる配慮をお願いしたい

前橋市

- 実際の避難所運営など確認できて良かった
- 演習時に黙って肩越しに（委員・見学の人）後ろから見るのはやめて欲しい
- 毎回異なるグループで様々な方と交流でき協力して参加できてとても良かった
- 幅広い視点を持つことの大切さ、現場は常に流動的ということが分かったが、発展形として、様々な選択枠があると段階的に話を進めていただけるとよかった

- 学校長や自治会長さんの多くの参加が必要。言われたからなどの参加者がおりこのような貴重な援会なのにもったいないと思った
- その場その場での避難所生活での違いの DVD 等があれば参加になる
- 避難所が開設してすぐの混乱しているとき、私たちは関わった方が良いのかを知りたい
- 個別で考える時間が短かったのもう少し時間が欲しい
- 時間が少し足りないように感じた
- 実際の避難所での話をもっと聞きたかった
- 演習の時間・ふりかえりの時間がもっとあっても良いのかと、また一つプログラムを掘り下げののも楽しい（理解が深まる）と思う
- 情報量が多く、咀嚼できたかが不安だが、はじめの一步を踏み出せた気がした。
- 日程の過密さを感じた
- 二日目が雪だったので、できれば他開催日したほうが良かった
- 年末の三日間は大変。講習の日程などは考えて欲しい
- 少し時間が長い気がした
- 実施時期について要検討していただきたい
- リーダーという名称は誤解を招く

美浜町

- 実際に現場に出られて活躍されている方ばかりなので、きれいごとではなかった部分(少し触れられましたが)、ここが困った、ボトルネックになってしまったというお話ももう少し聴けると、だからこの講習が大事なんだと、より思えるかなと感じた
- 今日で終わりではなく、これがスタートという気持ち、モチベーションを維持していくための工夫こそ大切。半年、1年、2年経ち、そういえばそんな講座も受けたような…にならない仕組みができれば素晴らしい。Facebook や Twitter、LINE などのグループなど、何らかの形に残るものができれば良かった
- 事前のオンデマンド講座は、参加者を募る上で一般市民の方から見るとハードルが高い。実際、地域の自主防災会や自治会の方々の参加が少なかったのは、その点にある
- 地域の何か役にたてる一住民でありたい
- 2日目の巡回する時に被災者役の人に『話しかけてください』とは状況質問と思っていたので『被災者に対して声がけをして下さい』とは思わなかったので残念
- 研修テキストのサマリー版作成要望する
- マイクが聞こえづらい時が多かった
- ぜひ、地域の自治会役員さんにも声をかけて参加してほしい
- 小学校にも還元していきたい
- いいメンバーに会えました
- 自分も含めて、女性、男性と、大きく区分けして語られたことが多い様に感じた。地域性もあるのかもしれない
- 見直す点は少なかったですが、ふり返りの DVD や画像提供がよければありがたい
- SNS への発信、人が写っているものはいけないのは分かるが、段ボールベッドやテントなども NG なのはどうしてだったのか

吹田市

- 演習が多く分かりやすかった
- 話し合いも活発にできた
- 総評や質疑などの時間が多すぎた気がする
- 防寒対策、時間設定
- 必要な内容だと思うが、寒い体育館どうにかならないか
- 吹田市避難所運営マニュアルに生かしたい
- 寒い場所だったので、外気温にて場所を検討お願いしたい
- 実際に災害が起こったときに、自分が支援できる状況である時に、どこから連絡が来て、どんな動き方になるのかが、お話しが無かったので、この先どうなるのか？実際派遣される時の説明も有ると良かった
- ロールプレイングでは、被災者の解決し難い話しを多く聞くことになると感じた。支援する方のメンタルヘルスにも注意が必要でそのために多職種へ繋ぐのだと思うが、自分を守ると言う事を強調されても良かったかなと感じた
- 震災は起こらないに越した事はありませんが、もしもに備える考えを更と感じた
- 研修時間について 60 歳を超えた身には、集中力が続かないので、4 時間に絞って実施いただきたい。それにより研修回数が増えても仕方ない
- 3 日目の対人コミュニケーションの基礎講義を、再考されてはどうか
- 3 日目の委員の挨拶を辞めて、委員を含めて学びを深める時間にさせていただきかけたかった
- 研修をこれで終わりにせず、次回につなげる課題をいただきたい。このままでは、中途半端なままになりそう
- 市町村に今後を期待するのはかなり甘い
- せっかくの体験の価値が無駄にならないかと懸念している
- 時間的な拘束や内容の量はこれくらいのものが必要。しかし寒さはこたえた。避難生活の辛さを少しでも体感する為と言われれば致し方ないと思うが、体調がすぐれない方にとっては少し過酷であった
- 障害者関係のプログラムがあれば良い
- 3 日間は長すぎる。2 日間で見直してほしい。職場の仲間(部下)に 3 日間の拘束はお願いできない。最後の委員会のコメント知らない
- 項目の多さ、消化不良にならないか

矢掛町

- 学校で必修や、教員試験の必修にしてはどうか
- 座学の時間が長かったと感じた
- もう少し避難所の設営など、会場施設をフルに活用して具体的に動くタイプのワークショップの時間があっても良かったのではないか
- 2 日目・3 日目のように終日研修が 2 日続くのは大変。1 日目と 2 日目のように間があいてしまうと記憶も薄れてしまうので、それぞれ一長一短あり難しい
- ボリュームもかなりあるので、入門編のような回があってもよい
- 事前のオンライン講習は不要だったのではないか
- 3 日間ともグループが変わって、コミュニケーションの勉強になった

- 長時間の活動だったので、体力的にきつuitと感じた
- 演習は時間を多くあれば、時間の長さは気にならない
- 専門職と合同のプログラム(共働)にしてほしい
- 内容が多すぎる
- 3日連続はちょっときつuit。できれば日をあけてほしい
- 休憩時間は10-15分が良い(5分間の休憩は意味がない)
- 終了時間が17:00は遅い。たとえ9:00スタートにしてでも16:00には終了すべき。
- 高齢者が多いので60~90分ごとに休憩が必要
- 各班での成果物が見えにくい
- カメラで写真としてスクリーン(プロジェクター)で提示すれば、もう少し見えやすい
- 参加対象者を避難所について知識のある人に限定してほしい
- 限られた時間の中で考えて進めていくのは、研修でも、災害時でも一緒だが、もう少しじっくり考え、グループで話のできる時間もあると良かった
- 時間に追われるところがあり、時間が足りない
- ワークショップ等で言葉(考え等)を文字にするのが難しかった
- 3日間を通して、自分自身がより優しくなれたと思う
- 1日と2・3日目の間隔があり、1日目研修内容の記憶が薄れてしまった
- 人々の笑顔のために生きる活力のために活動していきたい

以上